小樽市経済動向調査結果

１．調査期間：2023年1月から3月
２．調査対象：小樽市内の企業270社
３．内　　訳：製造業60、卸売業27、小売業45、運輸・倉庫業20、観光業46
　　サービス業39、建設業33
４．回答企業数：170社（62.9％）
５．調査方法：調査票によるアンケート

※ＤＩ（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・
好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概　　況

― 業況、売上はプラスで推移したが、採算は低調。各種経費の上昇、従業員不足が課題 ―

前年同期（2022年1月～3月）と比べた今期（2023年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2023年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは19.6で、前年同期と比べ52.7ポイント上昇し、プラスに転じました。業況は３期連続、売上は４期連続のプラス水準で推移しました。採算は大幅に上昇したものの、マイナス水準での推移が続いています。卸売業、小売業、運輸・倉庫業では業況DI、売上DI、採算DI全てが大幅に上昇し、プラスに転じましたが、製造業と建設業はやや低調に推移しました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、経済活動や人流の増加に伴う従業員不足が課題です。

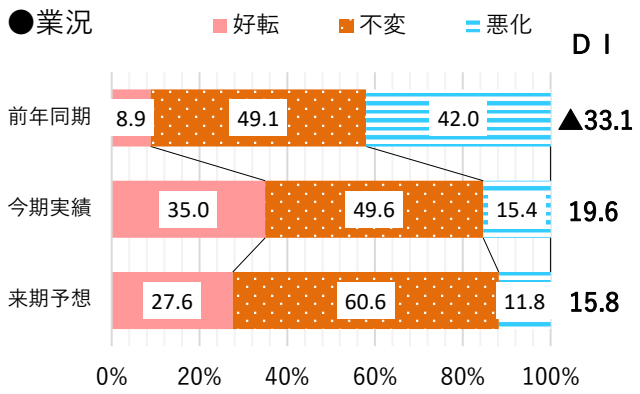
業種別業況DIは、製造業が同20.0ポイント上昇の▲13.3となりました。売上DIが大幅に上昇し、プラスに転じましたが、採算DIはマイナス水準で推移しました。食料品では６割超の企業で従業員が不足し、プラスチックでは６割超の企業で採算が悪化しました。卸売業は同62.3ポイント上昇の27.3となりました。食料品の約７割の企業で業況が好転、売上が増加しました。小売業は同53.1ポイント上昇の9.1となりました。全ての大型店、自動車小売で仕入単価が上昇しました。運輸・倉庫業は同78.7ポイント上昇の37.5となりました。道路旅客運送の８割、道路貨物運送の７割の企業で売上が増加しましたが、道路旅客運送では全社で従業員が不足しています。倉庫の売上DIはプラスに転じましたが、道路旅客運送や道路貨物運送と比べると低調に推移しました。観光業は同108.5ポイント上昇の66.6となりました。採算DIはプラスに転じ、売上DIはプラス幅が大幅に増加しました。９割超の企業で売上が増加し、外国人客数DIが大幅に上昇したものの、ほぼ全ての企業で仕入単価が上昇し、約半数の企業で従業員が不足しました。サービス業は同35.1ポイント上昇の14.3となりました。全ての飲食店で売上が増加しましたが、６割強の企業で従業員が不足しています。建設業は同11.0ポイント上昇の▲4.4となり、前期のプラス水準からマイナス水準に移行しました。一般土木工事業と設備工事業で、従業員不足の傾向が顕著に表れています。

来期の業況判断DIは15.8で、好転傾向が続くと予想しています。夏の観光需要の高まりや新型コロナウイルスの沈静化、経済活動の回復による売上の増加が期待される一方で、仕入単価や燃料費の上昇により採算の確保が難しい、従業員不足が続くといった課題が予想されています。

業況、売上、採算

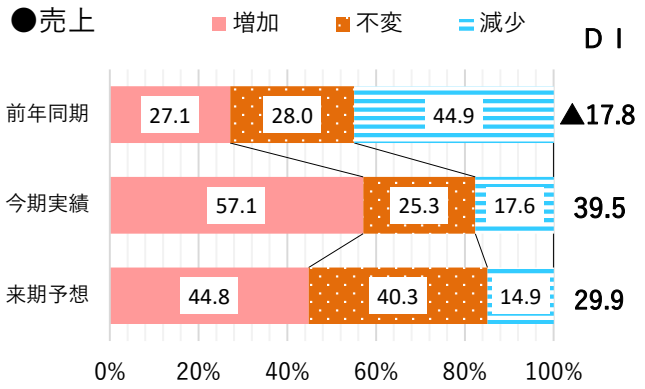
今期（2023.1～3）の業況判断DIは19.6で、前年同期(2022.1～3)と比べ52.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



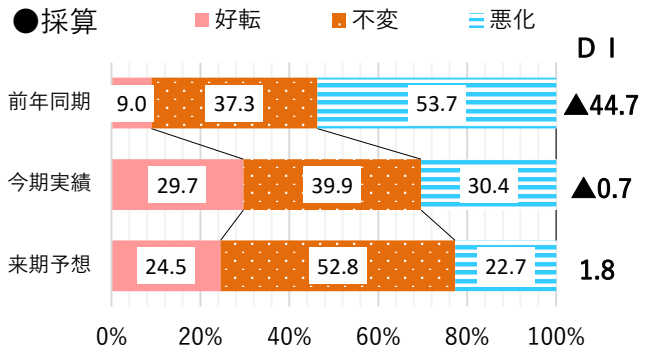
今期の売上DIは39.5で、前年同期と比べ57.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

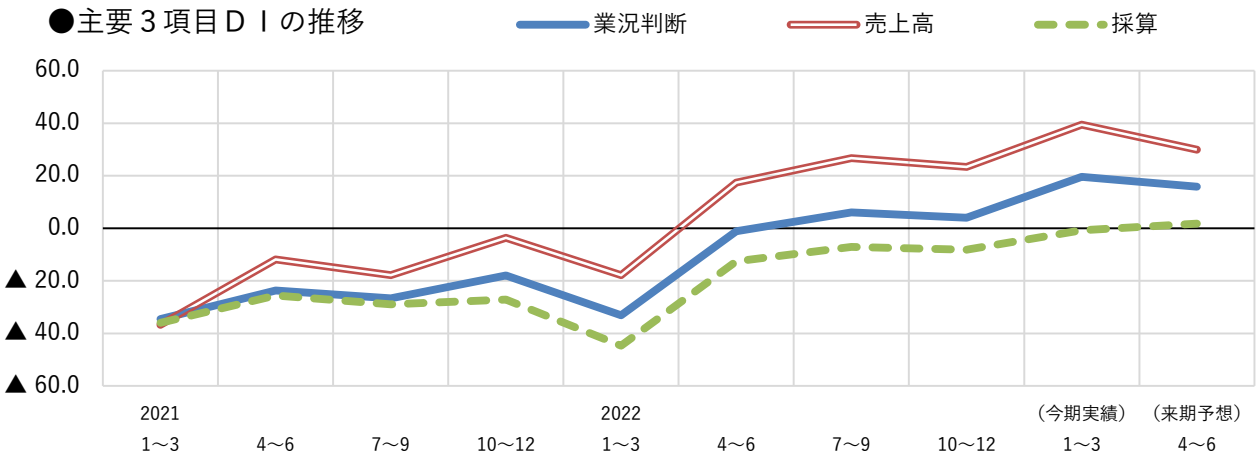
来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。



今期の採算DIは▲0.7で、前年同期と比べ44.0ポイント上昇しました。

来期は、採算がプラスに転じると予想しています。

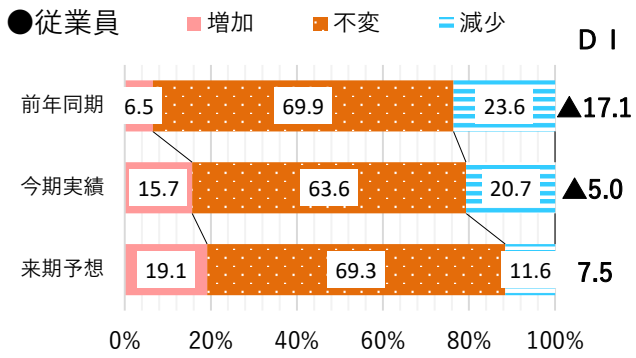




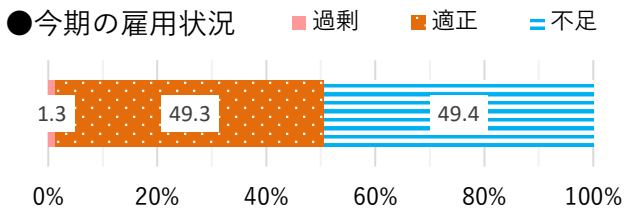
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.0で、前年同期と比べ12.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.3%、適正であると回答した企業の割合は49.3%、不足していると回答した企業の割合は49.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、40.5%を占めました。

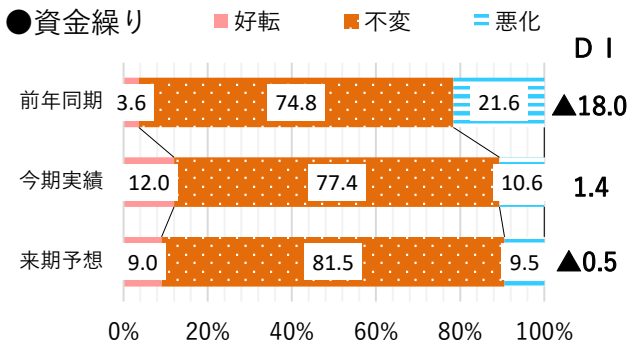
回答全体では、49.4%が適正規模の従業員を確保できていると回答しましたが、ほぼ同じ割合の48.8%は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	11
	不足	14
不変だった	過剰	0
	適正	69
	不足	38
減少した	過剰	1
	適正	4
	不足	31

資金繰り、設備投資

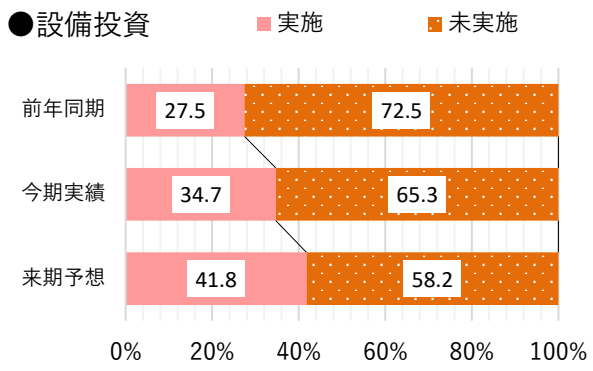
今期の資金繰りDIは1.4で、前年同期と比べ19.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった170社の34.7％にあたる59社が実施、前年同期と比べ7.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「ＯＡ機器」（同位）、2位が「建物」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期は、41.8%にあたる71社が設備投資を計画していると回答しています。

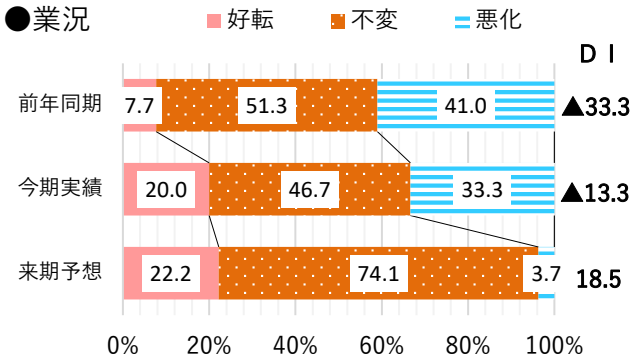


製　造　業

業況、売上、採算

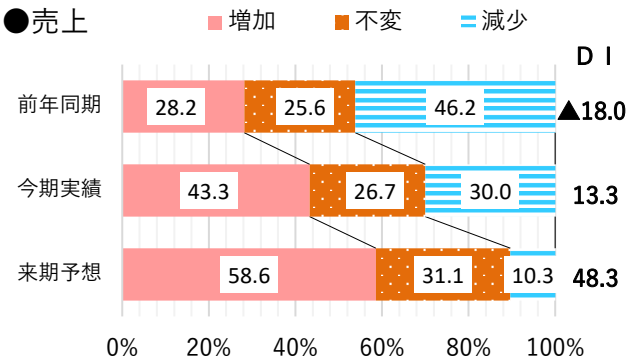
今期(2023.1～3)の業況判断DIは▲13.3で、前年同期(2022.1～3)と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期(2023.4～6)は、業況が大幅に好転しプラスに転じると予想しています。



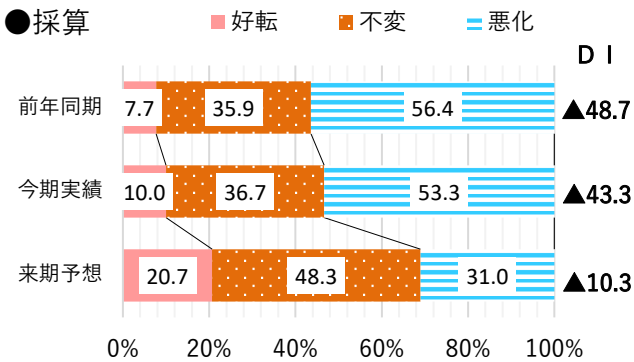
今期の売上DIは13.3で、前年同期と比べ31.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

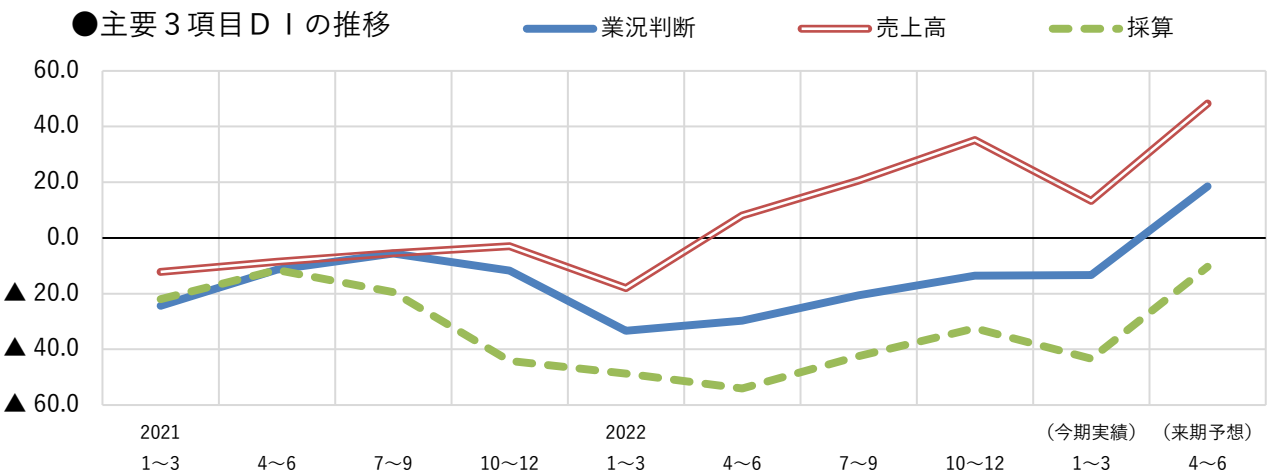
来期は、売上の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



今期の採算DIは▲43.3で、前年同期と比べ5.4ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

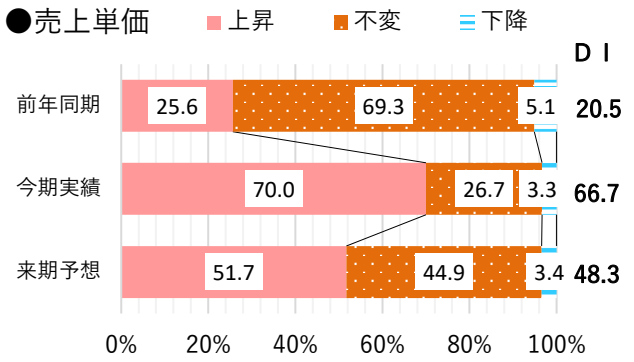




売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

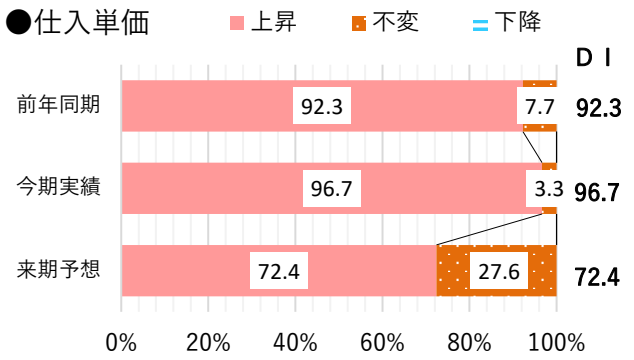
今期の売上単価DIは66.7で、前年同期と比べ46.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



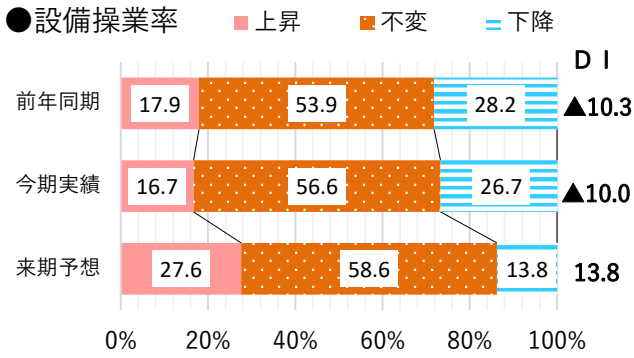
今期の仕入単価DIは96.7で、前年同期と比べ4.4ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲10.0で、前年同期と比べ0.3ポイント上昇しました。

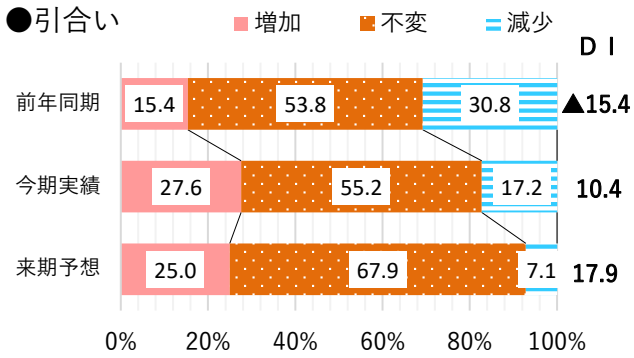
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは10.4で、前年同期と比べ25.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

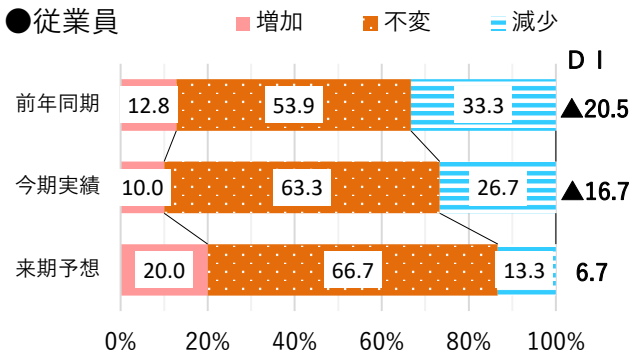
来期は、引合いの増加傾向が強まると予想しています。



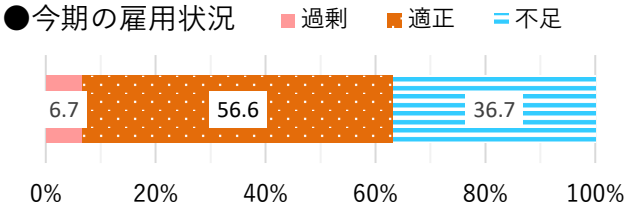
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲16.7で、前年同期と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.7%、適正であると回答した企業の割合は56.6％、不足していると回答した企業の割合は36.7％でした。



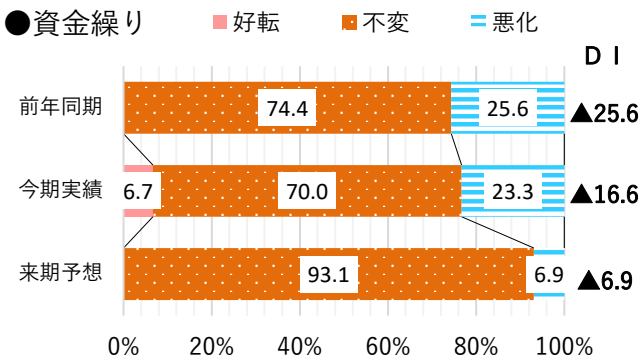
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、43.3%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。3割超の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	6
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

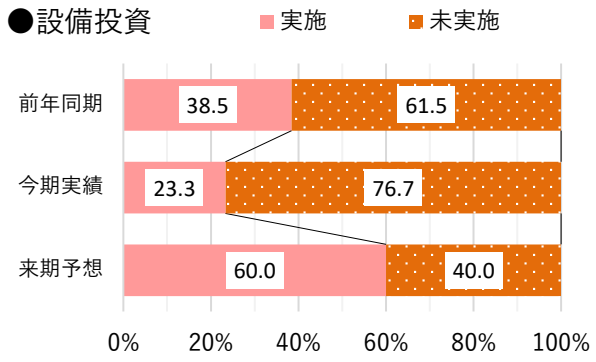
今期の資金繰りDIは▲16.6で、前年同期と比べ9.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



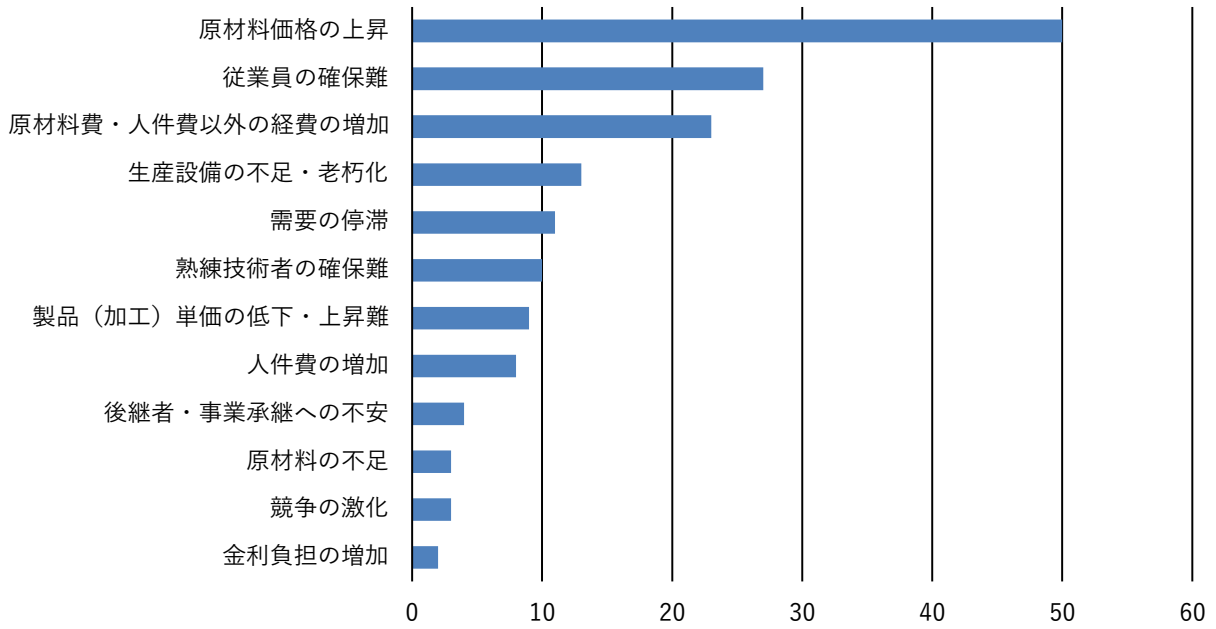
設備投資を実施した企業の割合は23.3%で、前年同期と比べ15.2%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、「付帯施設」（同位）、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は60.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■旅行客やインバウンドの需要が増加しているが、人手不足のため対応できていない。（食料品）
■原材料価格の高騰に伴い販売単価を引き上げざるを得ない状況だ。（食料品）
■年明けから閑散期に入り、主力製品の数の子の売上が減少した。（食料品）
■インバウンドの増加に伴い、売上は回復基調にある。今後に期待する。（飲料）
■予定通りの推移だが、工期変更により受注残が増えている。また、新規受注を控えている。（金属製品）
■人材確保に苦労している。原材料価格とエネルギーコストが大幅に上昇した。（金属製品）
■消耗品および電気料金等の値上げで困っている。（金属製品）
■原材料価格は国産ナフサ価格にプラント補修費、ユーティリティーコストが上乗せされている。製品値上げの交渉は決着しつつあるが、昨年１０月以降の電気料金、物流コスト、人件費の上昇分の交渉はほぼ決着しておらず、プラスチック製造、販売業者にとって負担が大きい。一昨年の７月から製品の値上げを継

続しているが、原材料価格の段階的な値上げに対し後追いで、原材料仕入単価の８０％しか製品単価に反映できていない。人材は必要な分を確保できておらず、求人を継続しているが、給与を増やさなければ応募すらない状況だ。（プラスチック）

■原材料価格上昇分の価格転嫁は終えているが、電力等ユーティリティ設備、賃金、運賃関連の価格転嫁はできておらず、４月以降の交渉となる。人員確保のため努力しているが、大手企業が大幅な賃上げを実施しているため、苦戦している。（プラスチック）

※ユーティリティ設備：工場を稼働させるために必要な電気や水、燃料などを供給する設備

■一部商品は価格転嫁できたが、買い控え等により売上が減少した。原材料仕入価格は前年同期と比べ大幅に上昇している。（プラスチック）

■仕入価格が上昇したが、売上額も増加しており、業況は好転した。（プラスチック）

■売上は前年同期より増えたが、原材料価格や運賃高騰のあおりを受けて、利益は確保できていない。直近１年は２０～３０代の社員の退職が目立ち、後継者育成も課題の一つだ。（ゴム製品）

■原材料価格の高騰、電気料金の負担増等マイナス要因に対して製品価格を引き上げている。（ゴム製品）

■官庁の作業服、雨具等の加工物件を増量受注できたことで業況が好転した。（衣服）

■土木関係の受注が減少した。仕入価格等のコストが増加した。（その他繊維製品）

［来期の業況について］

■原材料、資材、エネルギーコストの価格動向が不透明だ。閑散期のため、売上減少を見込む。（食料品）

■売上は回復傾向にあると思われるが、原材料価格の上昇が大きく収益につながらない。（食料品）

■引き続き原材料価格、資材価格が高騰する。輸出販売を増やしたい。（食料品）

■電気代の増加分を価格転嫁できるかどうかが重要だ。（食料品）

■夏の観光需要期に向けての準備として、ゴールデンウィーク前に新商品を販売する。（飲料）

■人材確保に苦労すると思われる。部品、材料不足による設備納入の遅延が課題だ。（飲料）

■案件の工期が決まれば、生産の余力が分かるが、受注確保に向けて取り組めるかは不明だ。（金属製品）

■ベトナムから実習生が３名来るため、人材確保については安心している。（金属製品）

■新商品の投入により、利益の大幅な増加を見込む。（金属製品）

■為替１３５円／ドル以下になれば原材料価格は徐々に下落すると思われるが、原材料メーカーは電気料金の上昇分を販売価格に転嫁する方針を打ち出しており、当社の採算は期待しているほど好転しないと思われる。製品価格の引き上げ品目を追加するため、令和４年度比で１１５％の売上を見込む。人材確保は最重要課題で、２名は確保できているが最低人員に対し１名不足している。（プラスチック）

■令和４年度は国際情勢の悪化により原材料、エネルギー価格が高騰したが、今後さらに国際情勢が悪化した場合、原材料の確保が困難になる。円安傾向は継続すると思われ、原材料価格は高値のまま推移する。電気料金の大幅な値上げにより採算は悪化する。（プラスチック）

■人材確保が課題だ。（プラスチック）

■商流の変更等あらゆる手段を実施する予定だ。（ゴム製品）

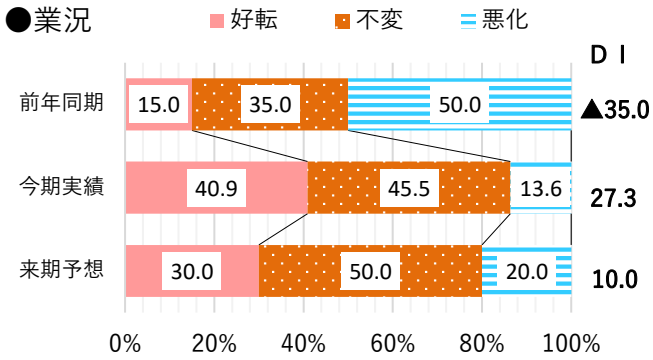
■引き続き官庁からの受注が増加すると思われるが、製品加工の人手が不足している。技術者の求人を出しているが、全く応募がない。（衣服）

卸　売　業

業況、売上、採算

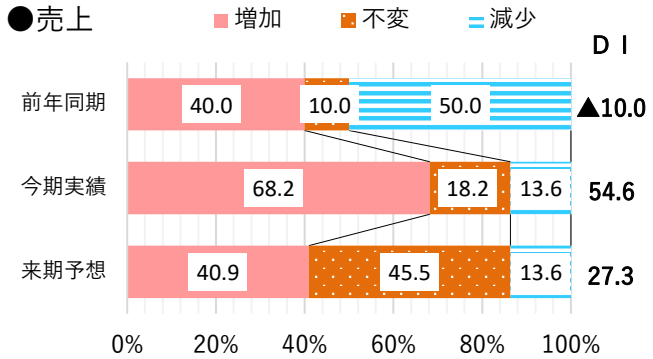
今期(2023.1～3)の業況判断DIは27.3で、前年同期(2022.1～3)と比べ62.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.4～6)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



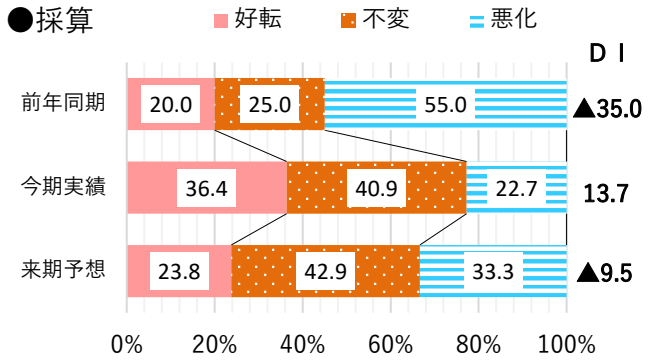
今期の売上DIは54.6で、前年同期と比べ64.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

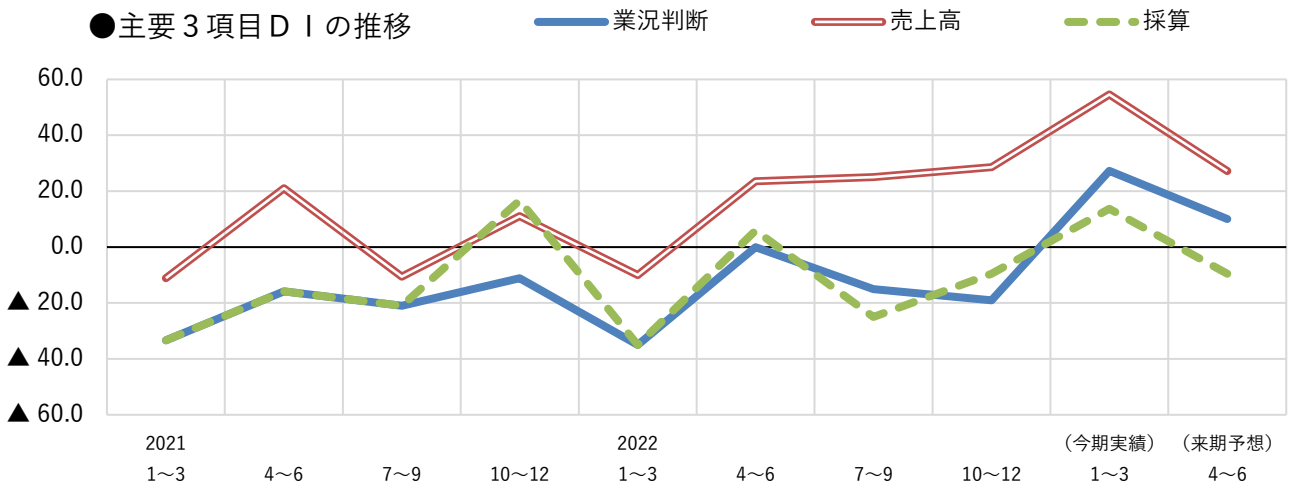
来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは13.7で、前年同期と比べ48.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。

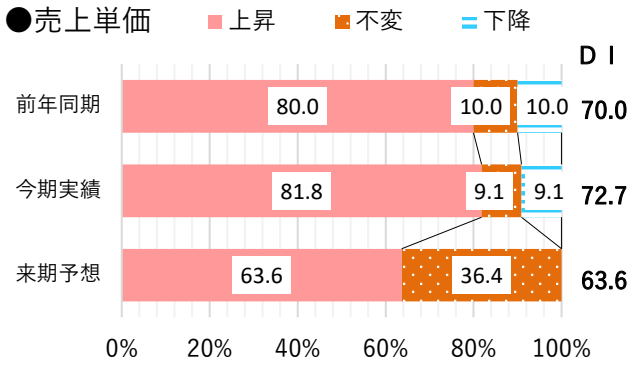




売上単価、商品仕入単価

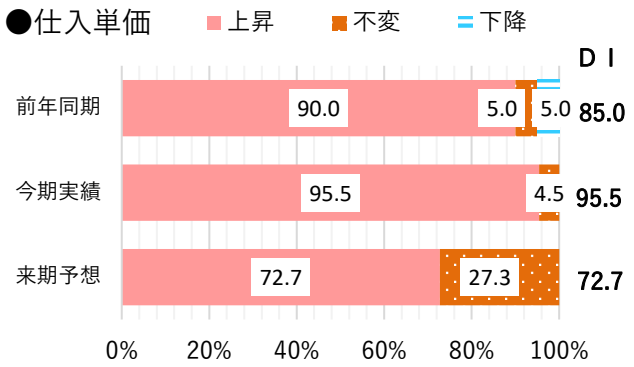
今期の売上単価DIは72.7で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは95.5で、前年同期と比べ10.5ポイント上昇しました。

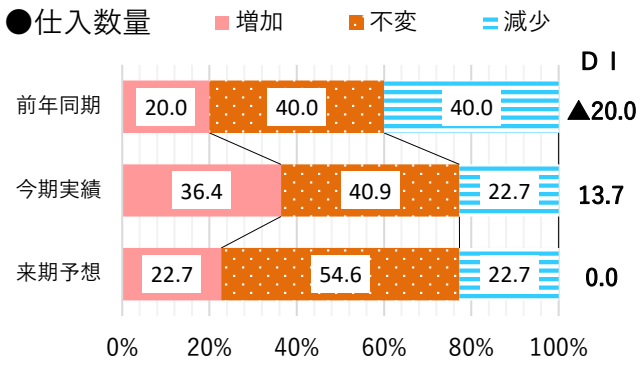
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

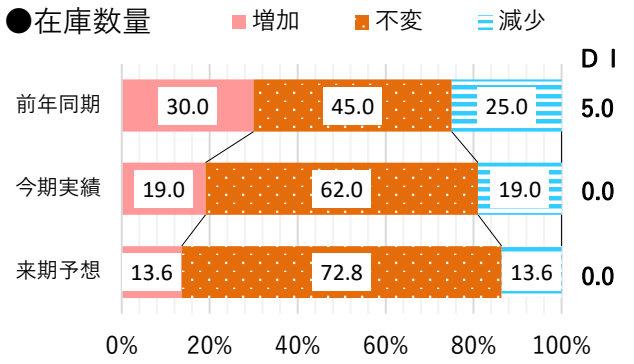
今期の仕入数量DIは13.7で、前年同期と比べ33.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入数量の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ5.0ポイント低下しました。

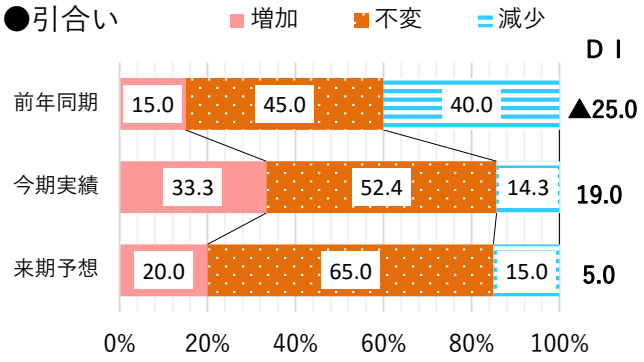
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは19.0で、前年同期と比べ44.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

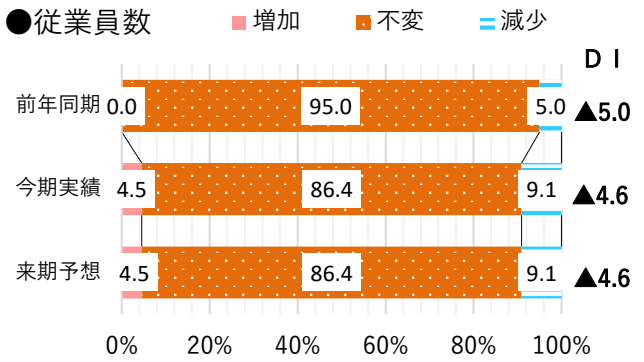
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



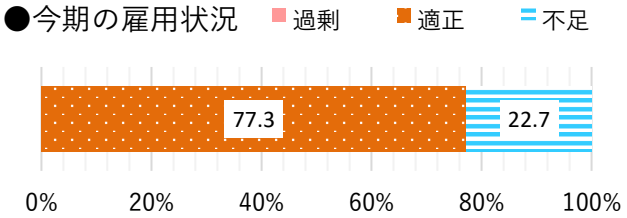
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.6で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は77.3%、不足していると回答した企業の割合は22.7%でした。



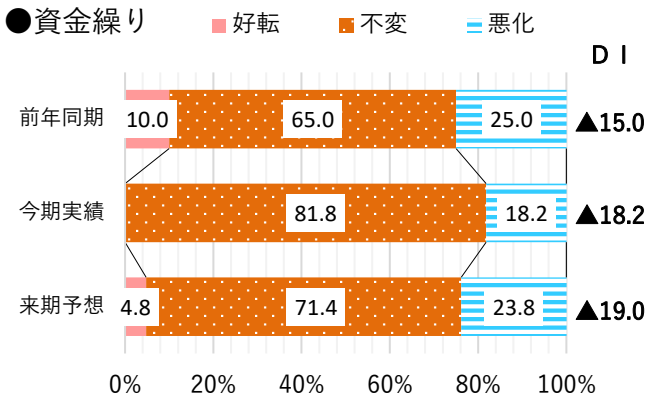
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の72.7%を占めており、不足と回答した企業は約2割でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	16
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

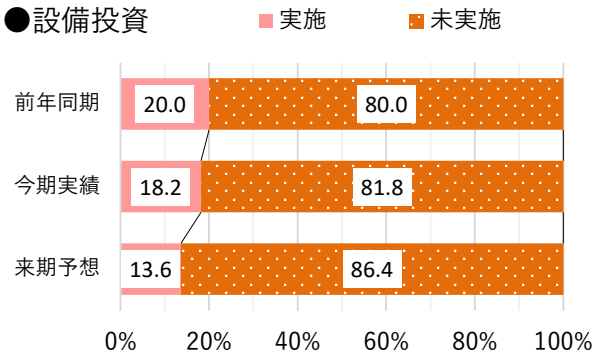
今期の資金繰りDIは▲18.2で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



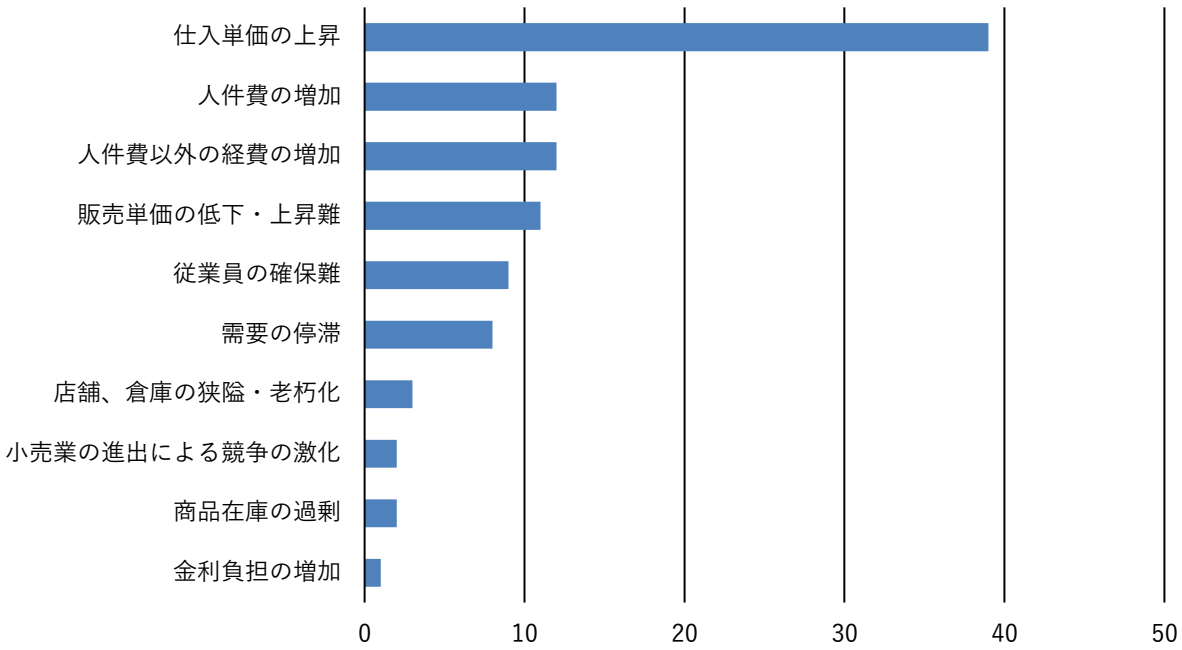
設備投資を実施した企業の割合は18.2%で、前年同期と比べ1.8%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「土地」、「ＯＡ機器」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は13.6%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」（同位）、3位が「販売単価の低下・上昇難」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■前年同期比で売上は３０～５０％、仕入価格は５～８％増加した。人材不足が課題だ。（食料・飲料卸売）
■コロナ禍の影響を受けていた昨年同期と比べ、売上が増加し、採算と業況も好転した。（食料・飲料卸売）
■コロナ禍においても新規案件を獲得でき、業況の好転につながった。（食料・飲料卸売）
■仕入価格の上昇により採算が悪化した。（食料・飲料卸売）
■新型コロナウイルスの感染者が減少し、経済活動が回復に向かうと思われる。自動車工場の稼働再開、新車の流通回復に期待する。除雪業務の稼働は少なかった。（自動車部品）
■大型案件があり、売上額が増加した。（事務用品）
■販売数量が減少したが、販売単価を引き上げた分売上は増加した。需要が伴わず、市場に活気がない。（鉱物・金属材料）
■北海道新幹線の照明工事、後志自動車道関連の建設資材納入量の増加で売上は増加した。セメント他原材料の仕入価格は大幅に上昇した。（建築材料）
■価格転嫁が難しく、採算が悪化した。メーカーの廃業等もあり、厳しい状況だ。（包装資材卸売）
■一昨年から仕入価格の上昇が続いている。なんとか価格転嫁できているため、売上は増加してているが、利益が追いついていない。（塗料卸売）

［来期の業況について］

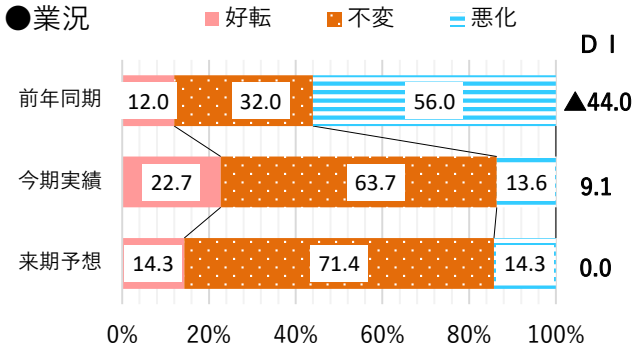
■売上の増加や採算、業況の好転傾向が続くと思われる。（食料・飲料卸売）
■仕入単価は上昇するが、価格転嫁も順調にできると思われるため、業績は不変を見込む。（事務用品）
■販売数量の減少は避けられないと思う。苦戦を見込む。（鉱物・金属材料）
■今期同様、業況は順調に推移すると思われる。（建築材料）
■商品仕入単価の高騰がいつまで続くか分からないため、見通しが立たない。（包装資材卸売）
■既に６月からの価格改定の案内が取引先から届いているため、商品仕入単価は上昇する。利益確保のために価格転嫁に着手したい。（塗料卸売）
■燃料油価格激変緩和補助金がいつ、どの程度減少するのか分からないため、悪化を見込む。（石油卸売）

小　売　業

業況、売上、採算

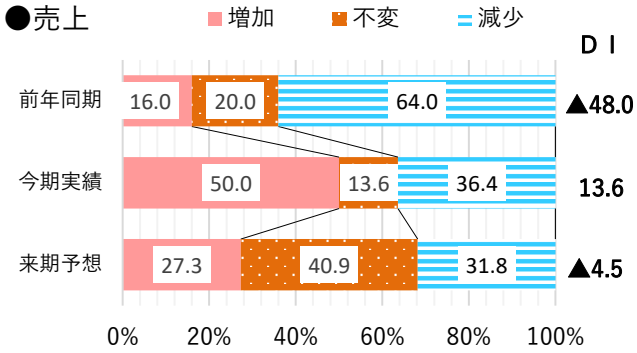
今期(2023.1～3)の業況判断DIは9.1で、前年同期(2022.1～3)と比べ53.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.4～6)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



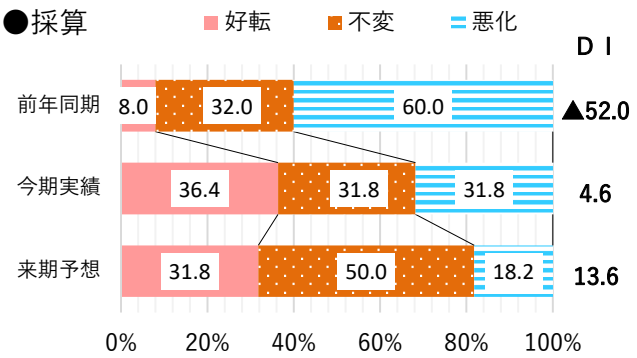
今期の売上高DIは13.6で、前年同期と比べ61.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

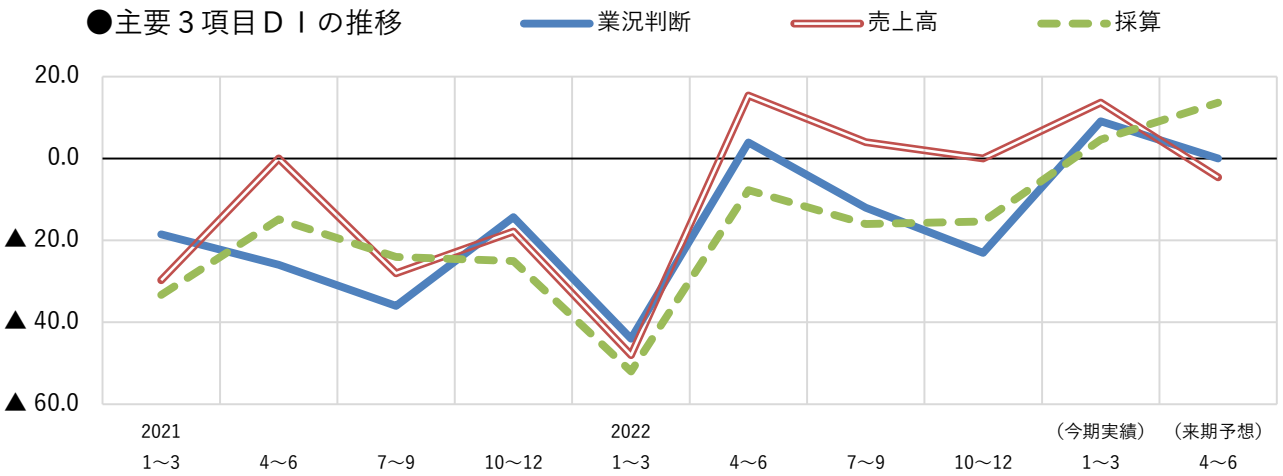
来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。



今期の採算DIは4.6で、前年同期と比べ56.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。

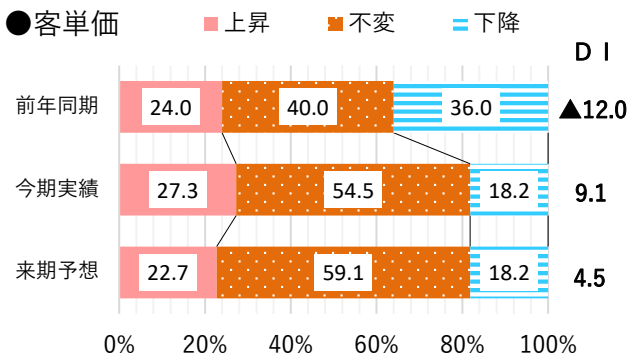




客単価、客数

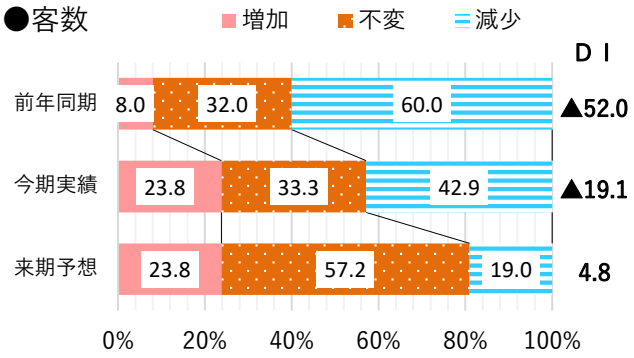
今期の客単価DIは9.1で、前年同期と比べ21.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の客数DIは▲19.1で、前年同期と比べ32.9ポイント上昇しました。

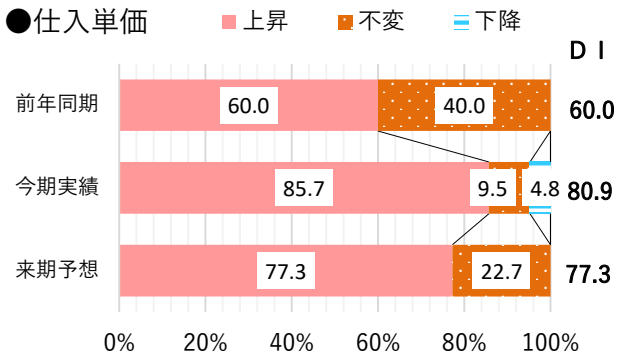
来期は、客数がプラスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

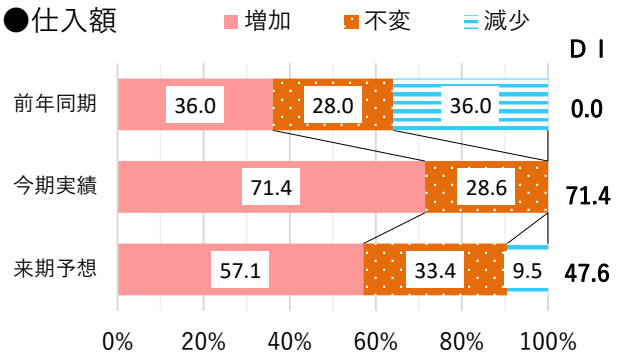
今期の仕入単価DIは80.9で、前年同期と比べ20.9ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



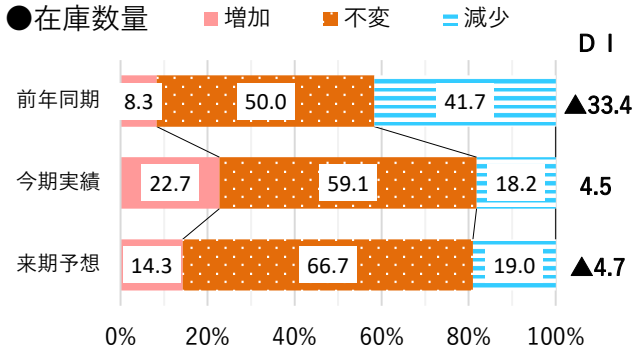
今期の仕入額DIは71.4で、前年同期と比べ71.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは4.5で、前年同期と比べ37.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

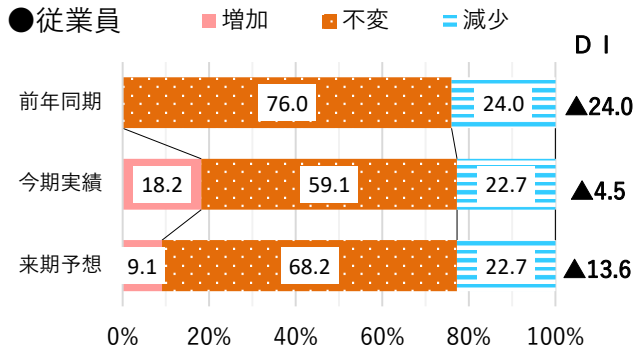
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



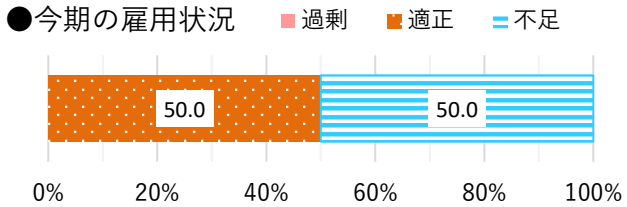
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.5で、前年同期と比べ19.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、36.3%を占めています。

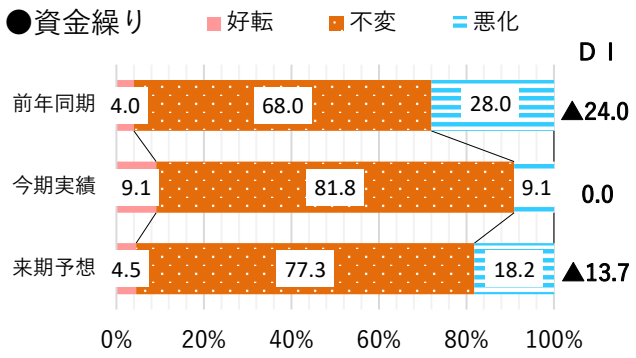
小売業全体では、半数の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

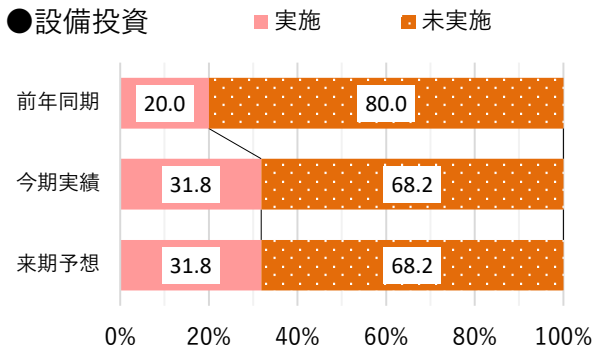
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



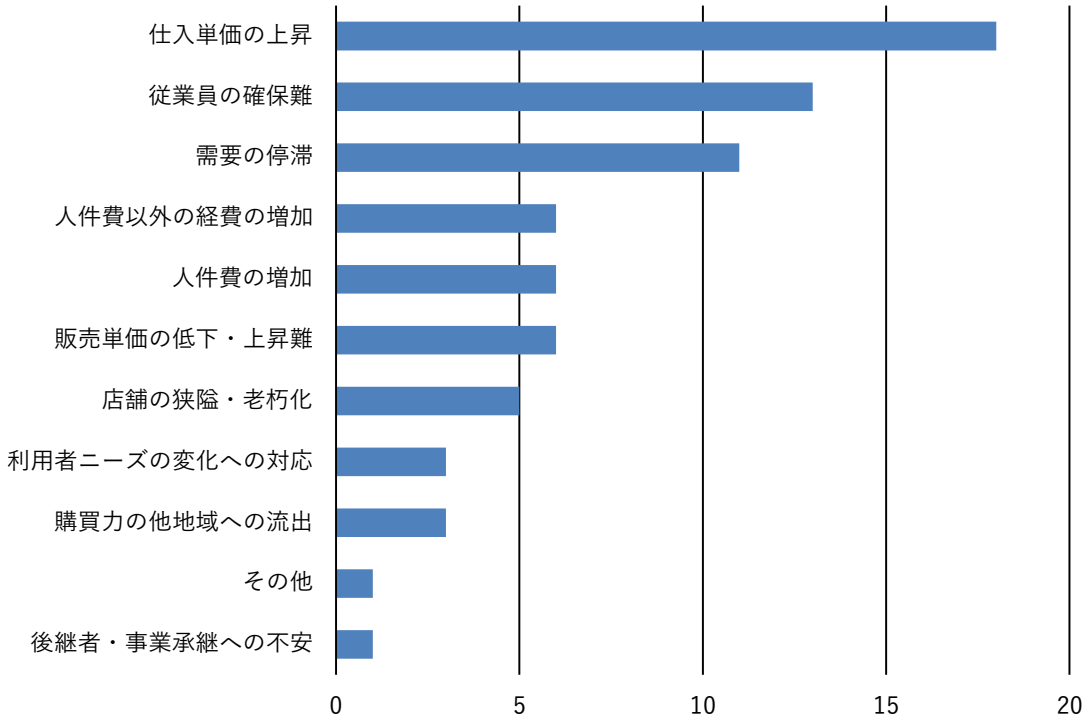
設備投資を実施した企業の割合は31.8%で、前年同期と比べ11.8%上昇しました。投資内容は1位が「ＯＡ機器」、2位が「販売設備」、「車両運搬具」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は15.4%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■コロナ禍の収束により外食、宿泊需要が増加し、業況が好転した。（食料品小売）
■アフターコロナで客数が増えたが、原材料費の上昇により利益が上がりづらい。（菓子製造小売）
■１～２月は注文が少なかった。（菓子製造小売）
■エネルギー価格や資財等仕入価格が高騰し、最低賃金も引き上げられたが、販売価格の引き上げがなかなかできないため赤字が増えている。思うような人材を確保できず、苦労している。（食肉小売）
■消費者の収入に余裕がないように感じられるので、販売価格を引き下げた。（衣服・身の回り品小売）
■利用客数の増加に努めた。（衣類・身の回り品小売）
■半導体不足により、年度の売上が今期に偏った。国内で様々な採用に取り組んだが、人材が定着しないため、外国人採用に着手したい。（自動車小売）
■メーカーの生産台数の増加に伴い、新車が予想以上の増産となり、売上が増加した。（自動車小売）
■商品仕入単価が上昇した。（自動車小売）
■高額商品が売れた。（自動車小売）
■売上が増加した。（自動車小売）
■物価の高騰により、買い控えや客単価の低下が目立った。（家電量販店）
■コロナ禍の落ち着きにより、客足が外食や観光に向いたことや、競合店の改装によって客数が減少した。１～２月は降雪による客数減少の影響も少なからずあった。仕入単価の高騰を受け、商品の内容量と価格のバランスをとることで、売上と販売数量を確保した。パート従業員の採用が急務だ。（大型店）
■売上と客数が増加した。（大型店）
■１～３月にかけて売上が増加した。（ホームセンター）
■コロナ禍が終息に向かい、飲食店に活気が戻ったことで売上が増加した。（コンビニ）
■地域の人口減少によって売上と客数が減少した。（コンビニ）
■仕入価格の上昇がいつまで続くか分からないが、上昇幅によっては利益が減少する。人件費の上昇も懸念材料だ。（ドラッグストア）
■人件費の増加が見込まれるが、業況は維持できている。（燃料小売）

［来期の業況について］

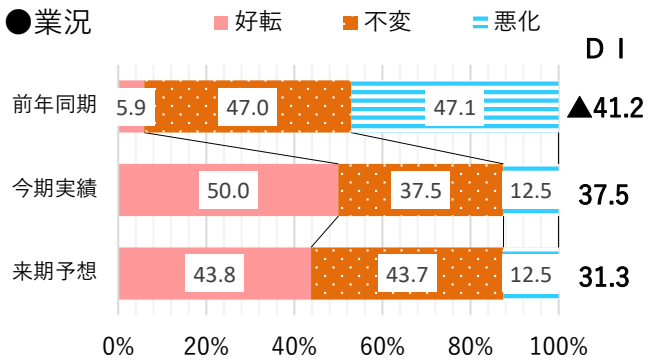
■需要は高止まりを見込む。（食料品小売）
■年末年始の需要があった今期と比べ、売上の悪化が見込まれる。４～５月にかけて相当な品目の原材料費や包装資材の値上げが見込まれるため、価格転嫁を考えなければならない状況だ。（菓子製造小売）
■注文が決まればスポット商品の買取りが毎月あるので、売上につながる。（菓子製造小売）
※スポット商品：単発的に仕入れ、販促する商品のこと
■今期同様、各種経費の高騰による採算の悪化が続くと思われる。（食肉小売）
■市場の縮小傾向が明確になるだろう。（衣服・身の回り品小売）
■半導体不足から４～９月は納車が中心となるため、売上が減少する。油脂類の原価高騰により、全ての工場作業料金の改定が必要となる。（自動車小売）
■メーカーの生産台数によるところが大きいが、大きな落ち込みはないと予想する。（自動車小売）
■観光や帰省を控える方針が緩和されたことで、客数の増加が見込まれる。電気料金の高騰を、高単価の省エネ家電を販売するチャンスとしたい。（家電量販店）
■電気代金が高値で推移し、経費の管理が難しくなる。売上の確保を重視する。（大型店）
■売上と客数の増加を見込む。（大型店）
■コロナ禍が弱まり、業況の回復が期待される。（ホームセンター）
■夏は猛暑が見込まれるようなので、売上の増加を期待している。（コンビニ）
■客数の減少傾向は変わらないと思う。（コンビニ）
■消費者のマインドが物価上昇に慣れてくれば大きな影響は避けられると思うが、経費（仕入価格、人件費、燃料等）の増加が懸念されるため、大幅な利益増加は期待しにくい。（ドラッグストア）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

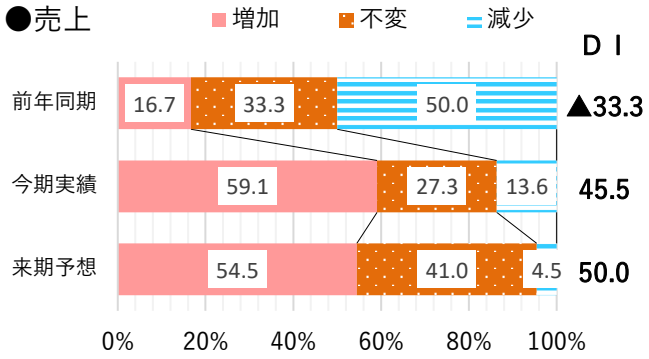
今期（2023.1～3）の業況判断DIは37.5で、前年同期（2022.1～3）と比べ78.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



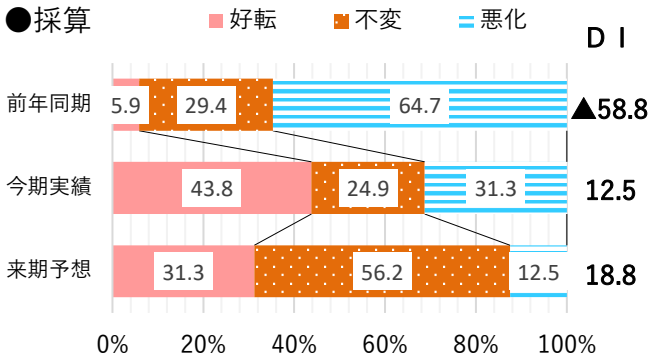
今期の売上高DIは45.5で、前年同期と比べ78.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

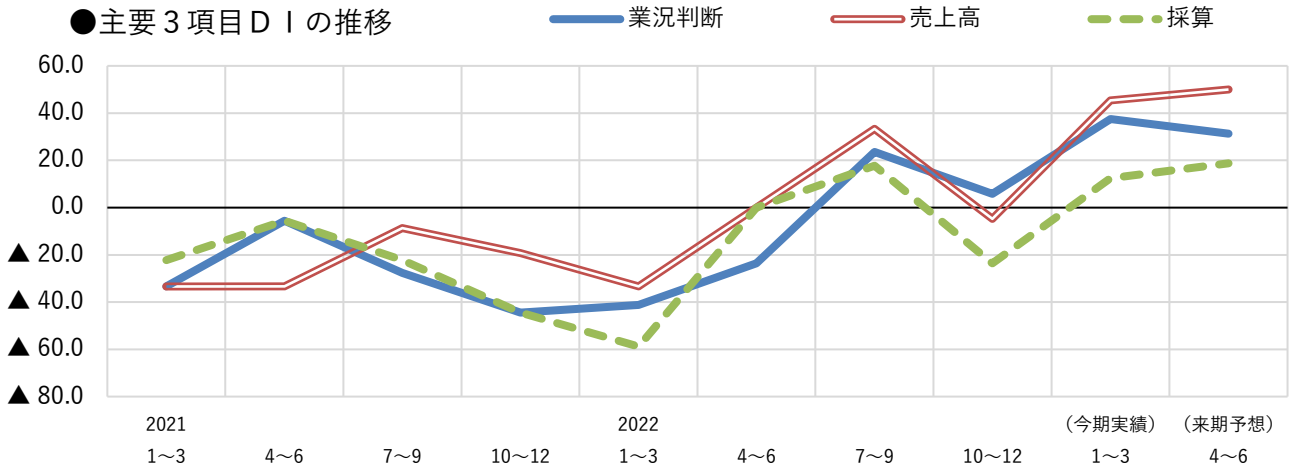
来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。



今期の採算DIは12.5で、前年同期と比べ71.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。

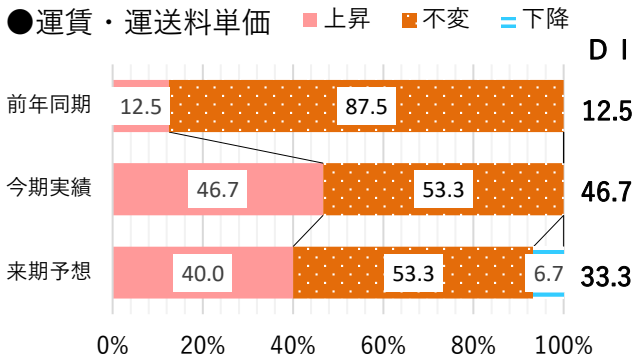




運賃・運送料単価、保管料単価

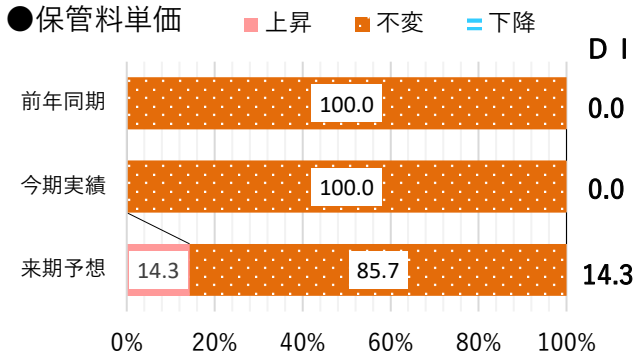
今期の運賃・運送料単価DIは46.7で、前年同期と比べ34.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

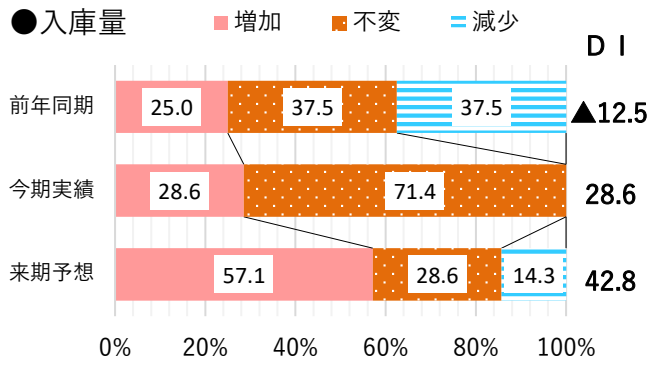
来期は、保管料単価の上昇を予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

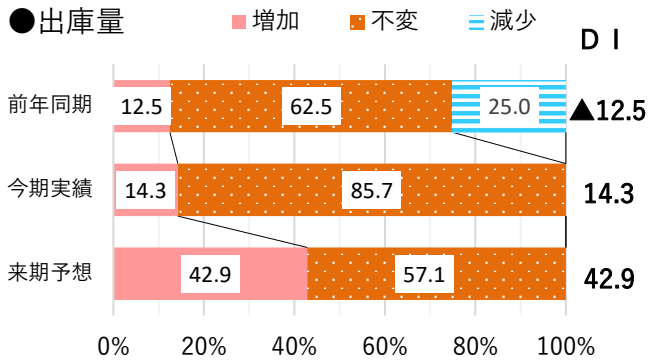
今期の入庫量DIは28.6で、前年同期と比べ41.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、入庫量の増加傾向が強まると予想しています。



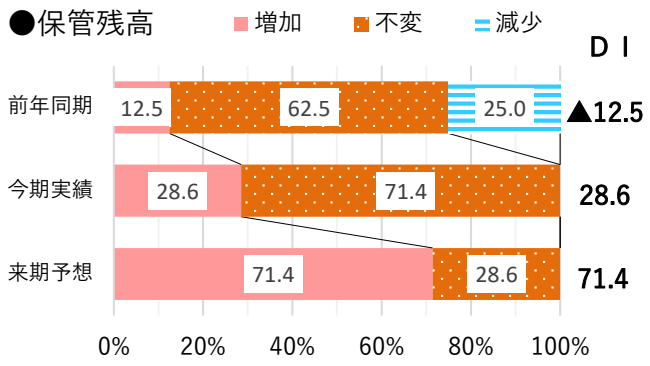
今期の出庫量DIは14.3で、前年同期と比べ26.8ポイント上昇し、プラスに転じしました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは28.6で、前年同期と比べ41.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

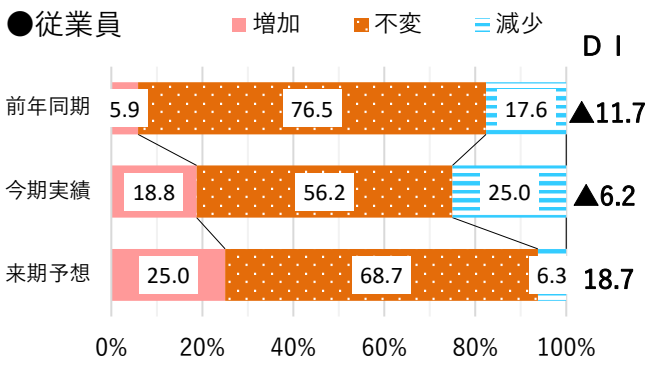
来期は、保管残高の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



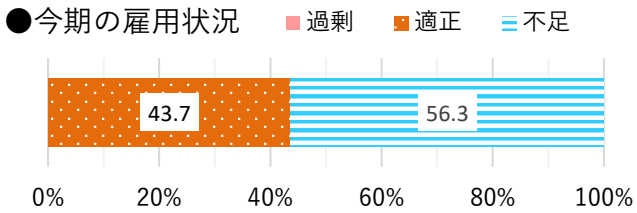
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲6.2で、前年同期と比べ5.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は43.7%、不足していると回答した企業の割合は56.3%でした。



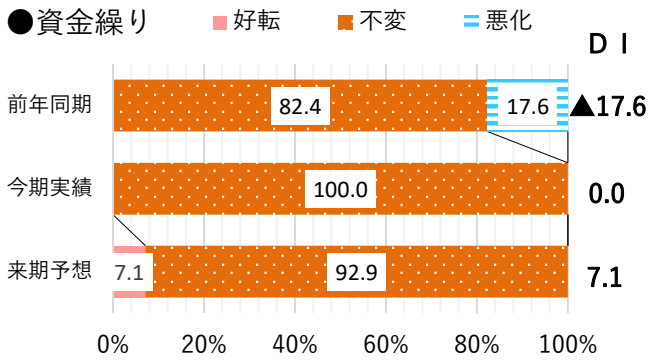
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、31.2%を占めましたが、回答全体では半数以上が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

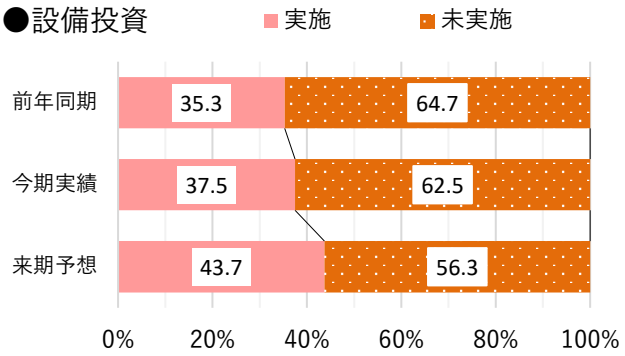
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転を予想しています。



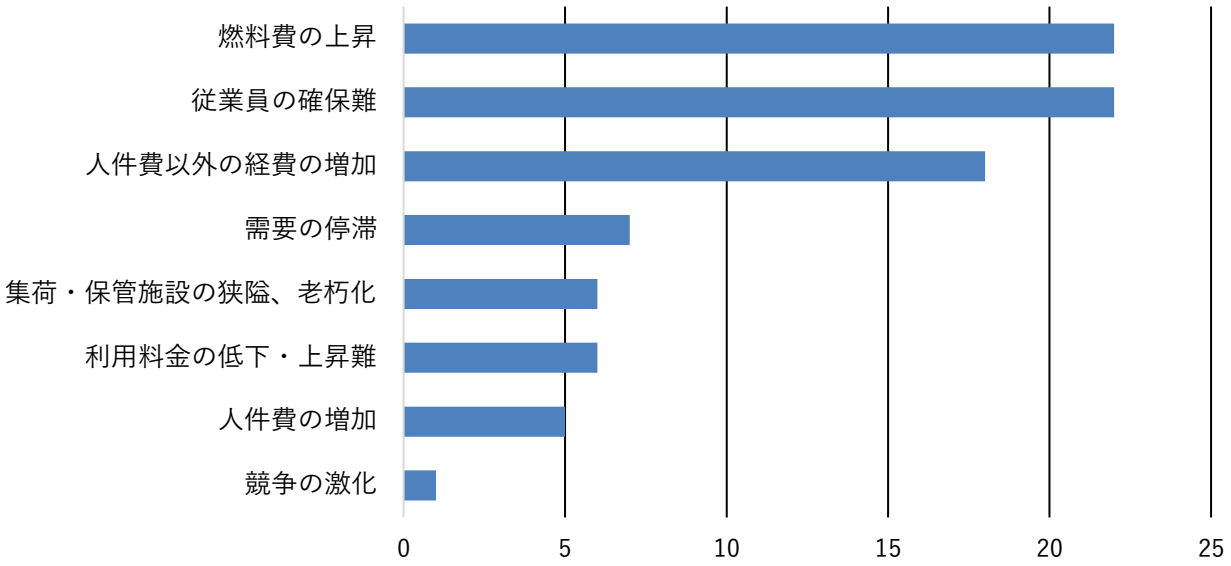
設備投資を実施した企業の割合は37.5%で、前年同期と比べ2.2ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、「ＯＡ機器」（同位）、2位が「その他」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.7％で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、「従業員の確保難」（同位）、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■運賃単価の引き上げや業務量の増加により、売上が増加し、業況が好転した。（道路貨物運送）
■人件費、設備の減価償却費、車両価格すべてが上昇し、採算が悪化した。（道路貨物運送）
■人材流出が多く、確保に苦慮している。（道路貨物運送）
■全ての仕入価格が大幅に上昇した。（道路貨物運送）
■取引額が増加した。（道路貨物運送）
■運搬量が増加した（道路貨物運送）
■新型コロナウイルス感染者の減少により観光客が増加し、売上につながった。（道路旅客運送）
■売上が増加したが、人件費や燃料費等の高騰分を吸収できていない。（道路旅客運送）
■売上が増加した。（道路旅客運送）
■売上の増減はほぼないが、燃料費等が高騰している。（倉庫）
■新型コロナウィルスの沈静化と全国旅行支援等で旅客が増加した。経済活動が回復に向かっており、貨物も徐々に回復している。（水運）

［来期の業況について］

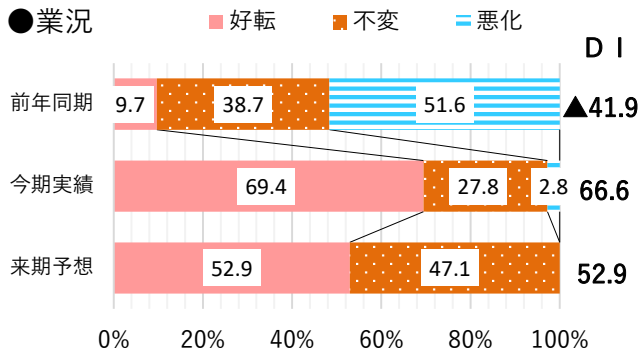
■運賃の値上げを予定する。新規受注の増加が見込まれるため、業況の好転を見込む。（道路貨物運送）
■今後も運賃単価を引き上げる予定のため、好転を見込む。（道路貨物運送）
■新卒採用はできたが、いまだに不足している。（道路貨物運送）
■大型案件が始まるため、好転を見込む。（道路貨物運送）
■仕入価格の上昇が続くと思われる。（道路貨物運送）
■前年並みの業況だと思われる。（道路貨物運送）
■売上は増加すると思われるが、人件費や燃料費等の上昇分は吸収できないだろう。（道路旅客運送）
■従業員の高齢化に伴い、退職者が増加する。（道路旅客運送）
■売上の増加を見込む。（道路旅客運送）
■荷動きが少ない冬が明け、入出庫量が増加する。将来を見据え、社員の中途採用を予定する。（倉庫）
■入庫量の増加を見込む。（倉庫）
■インバウンド、消費の増加に伴う貨物取扱数量の増加を見込む。その一方で、燃料費等の高騰によるコストの増加が予想されるため、取扱料金の値上げ対応が急がれる。（港湾運送）
■新型コロナウイルスが沈静化し、全国旅行支援が延長されれば売上の増加が見込める。物価高騰に伴い荷動きが悪くなっている物品があるため、貨物の動向は不透明だ。（水運）

観光業

業況、売上、採算

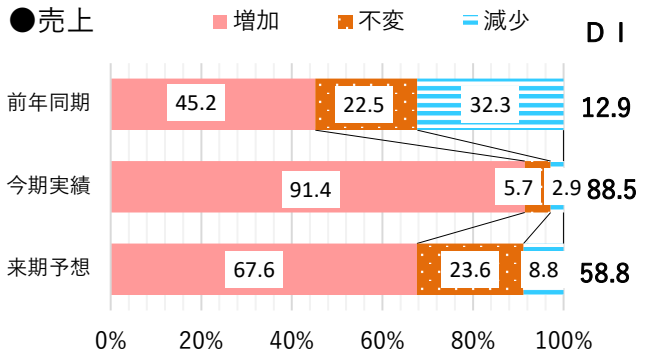
今期（2023.1～3）の業況判断DIは66.6で、前年同期(2022.1～3)と比べ108.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



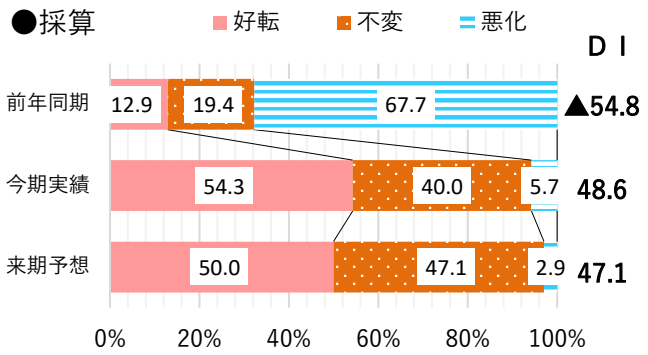
今期の売上DIは88.5で、前年同期と比べ75.6ポイントと大幅に上昇しました。

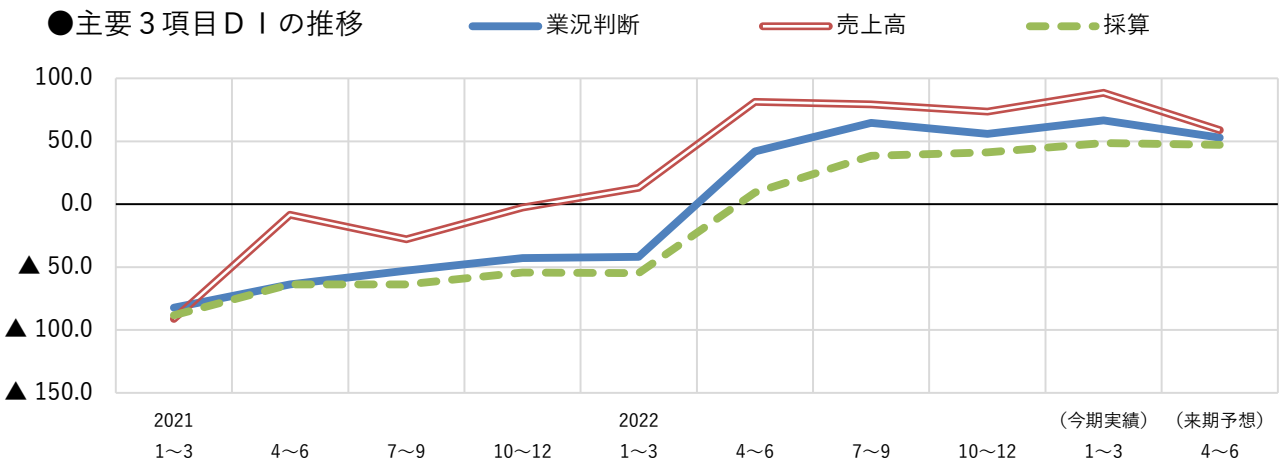
来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは48.6で、前年同期と比べ103.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。

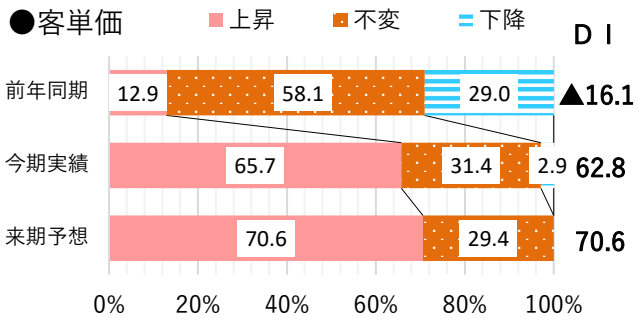




客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

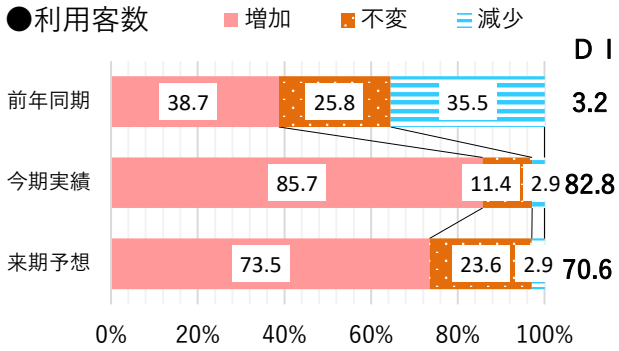
今期の客単価DIは62.8で、前年同期と比べ78.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



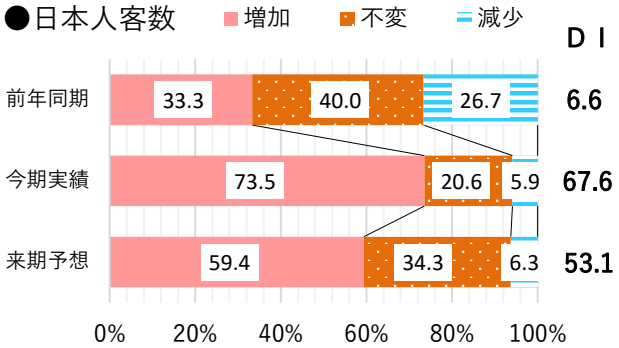
今期の利用客数DIは82.8で、前年同期と比べ79.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



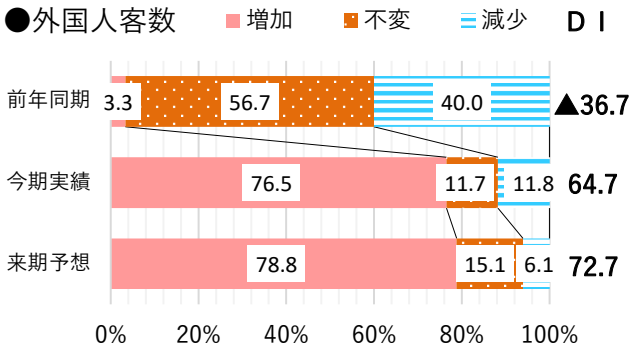
今期の日本人客数DIは67.6で、前年同期と比べ61.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは64.7で、前年同期と比べ101.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

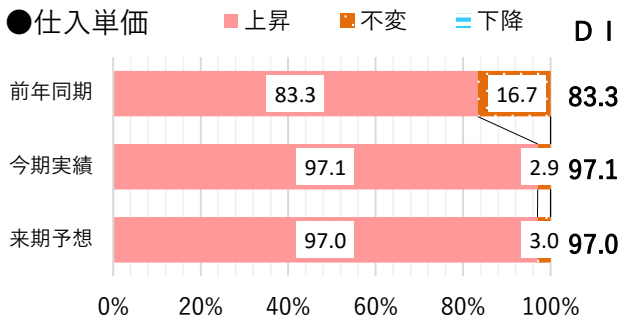
来期は、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは97.1で、前年同期と比べ13.8ポイント上昇しました。

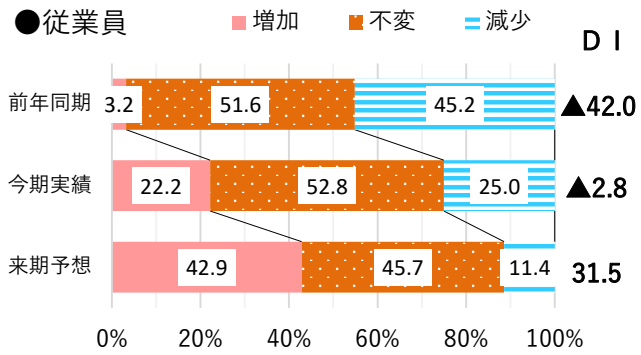
来期は、仕入単価のほぼ横ばいを予想しています。



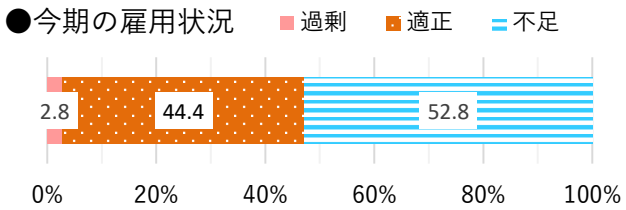
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲2.8で、前年同期と比べ39.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.8%、適正であると回答した企業の割合は44.4％、不足していると回答した企業の割合は52.8%でした。



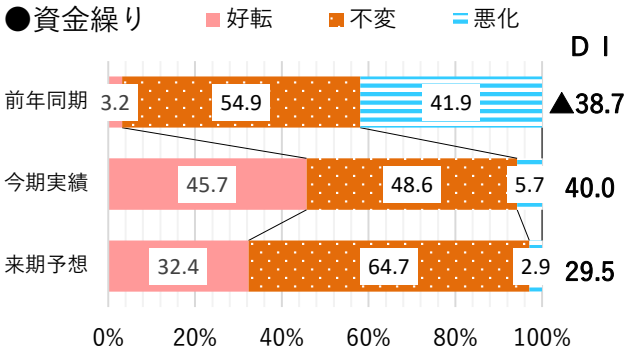
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、33.3%を占めました。回答全体では52.7%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	4
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	9

資金繰り、設備投資

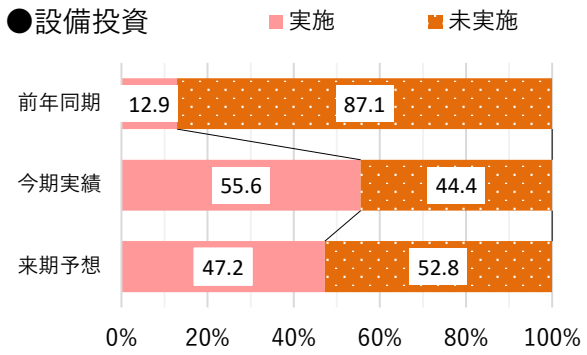
今期の資金繰りDIは40.0で、前年同期と比べ78.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は55.6%で、前年同期と比べて42.7%増加しました。投資内容は、1位が「建物」、「付帯施設」（同位）2位が「サービス設備」、「ＯＡ機器」（同位）の順です。

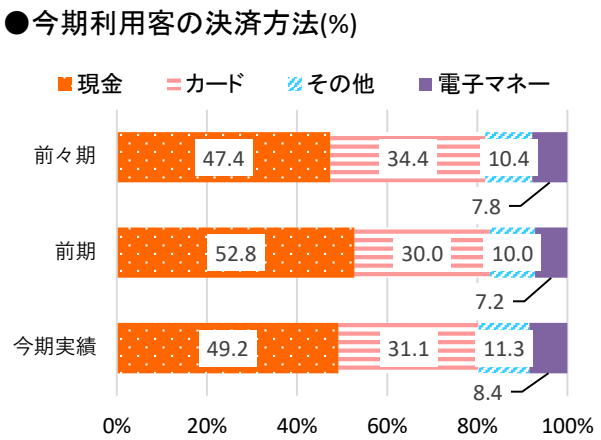
来期に設備投資を計画している企業の割合は47.2%で、減少を予想しています。



今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で49.2%、2位がカードで31.1%、3位がその他で11.3%、4位が電子マネーで8.4%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振り込み、掛け売り、クーポン券、ＯＴＡ(Online Travel Agent：オンライン旅行会社)による決済です。

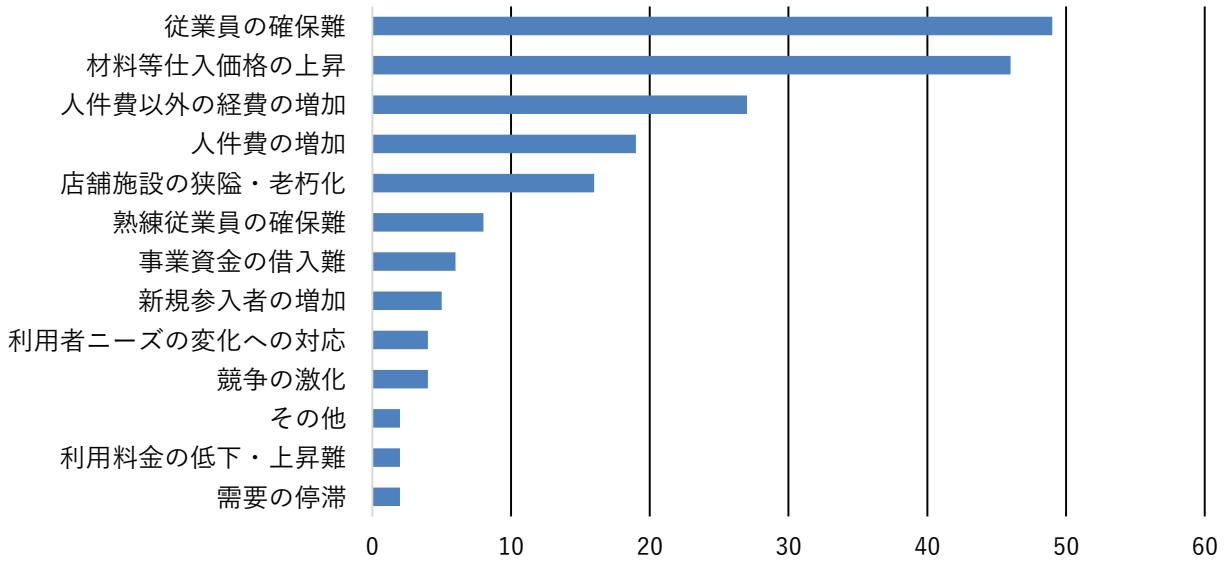


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は63.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■どうみん割、全国旅行支援により客数が増加した。１０月以降インバウンド需要が回復しており、売上はは好転した。原材料価格の高騰により仕入価格が増加した。最低賃金の上昇に合わせ、求人の時給を引き上げた。通年で従業員を募集しているが応募はまばらで、人材不足の１年だった。（ホテル）

■インバウンドが増加した。韓国、台湾、タイ、北米の順に多く、北米の増加は新しい傾向だ。（ホテル）

■インバウンドの回復が見込みより早く、感染症予防策の緩和もあり、業況が好転した。（ホテル）

■インバウンドはもともと少なかったが、中国人観光客の早期回復を望む。（ホテル）

■インバウンドの増加とＭＩＣＥの増加により好転した。（ホテル）

■インバウンドが増加し、業況が好転した。（コテージ・ペンション）

■今までにない程売上が増加した。客数が少なかった１５～１７時台に外国人が来店し満席になり、夜も１９時頃には満席になる。例年客数が少ない１月の売上も良く、過去にないことが起きている。（飲食店）

■売上、客数は増加しているが、仕入価格の上昇が続いており、原価を圧迫している。今以上の商品価格の引き上げは厳しい。（飲食店）

■雪あかりの路の手宮線会場がなくなった分、人々が運河会場に集中し、売上が増加した。（飲食店）

■令和４年９月以降、東南アジア系の来客が増加している。（飲食店）

■店舗の規模に見合った業績を残せていると思う。（飲食店）

■インバウンドの回復で売上が増加した。（飲食店）

■とまっ得おたるクーポンにより、売上増加につながった。仕入価格の増加分は小売価格に反映している。人材確保は厳しい状況だ。最低賃金は昨年引き上げた。（土産品）

■観光客（国内、国外）が増えた分、コロナ禍前の業績に近づきつつある。（土産品）

■インバウンドの増加とほっかいどう応援クーポンにより業況が好転した。（土産品）

■コロナ禍が落ち着き、ビジネスが動き出したことで業況が好転した。（土産品）

■さっぽろ雪まつりの期間に、中国人を除く外国人観光客が増加した。（土産品）

■インバウンドが増加した。人材不足が課題だ。（土産品）

■インバウンドの利用が増加した。（レンタカー）

■乗客数、売上額ともに前年同期比で５割程度増加した。（水運業）
■昨年同期はまん延防止等重点措置のため駐車場の閉鎖が多かったが、今期は通常通り営業でき、売上が増加した。（船舶貸渡業）
■インバウンドがコロナ禍前に迫る勢いで回復したため、１～２月の集客は好調だった。（社会教育）
■燃料費等の管理コスト全般が上昇した。（娯楽業）

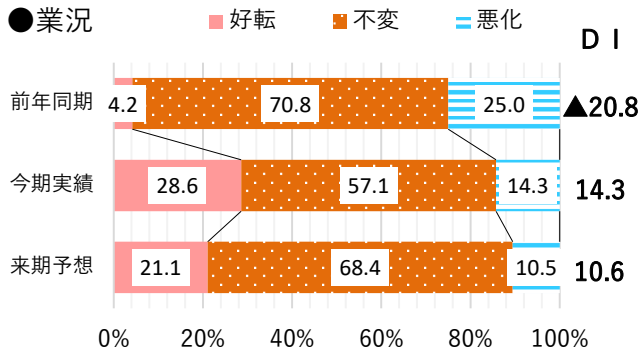
［来期の業況について］
■客数は増加すると思うが、会社全体として大きな変動はないと思われる。原材料価格の高騰により、仕入価格は上昇すると思われる。引き続き求人をかける予定だが、従業員の充足は見込めない。（ホテル）
■東アジアのインバウンドとＭＩＣＥの増加により、コロナ禍前の水準まで業況の回復を見込む。（ホテル）
■客室を改装し、３月から高単価客室を販売するため、売上の増加を見込む。（ホテル）
■感染症予防策のさらなる緩和により、観光客の増加を見込む。（ホテル）
■悪化する要素が見当たらないため、好転を予想する。（ホテル）
■休業期間があるため、売上の減少を見込む。（コテージ・ペンション）
■大きな変化はないと思うが、仕入単価が落ち着かず、今後も最低賃金が上昇するなら厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）
■人手不足のため、時短営業せざるを得ない可能性がある。（飲食店）
■今期に退職者がいたため、人材確保に取り組む。（飲食店）
■中国人客が増加すれば状況が好転すると思われる。（飲食店）
■インバウンドが増えると思われる。（飲食店）
■支援金等がなくとも、売上や来客は増加すると思われる。他は状況に応じて対応したい。（土産品）
■コロナ禍等による観光業への規制等がなければ、業況は少しずつ改善すると思われる。（土産品）
■コロナ禍終息を見据えて進めてきた準備が、実を結ぶ一年になると思われる。（土産品）
■新型コロナウイルスの５類移行に伴い、観光需要の増加を見込む。（土産品）
■インバウンドの増加が続き、さらなる好転を見込む。（土産品）
■今期に引き続き、人材不足が課題となる。（土産品）
■観光客の利用に期待する。（レンタカー）
■乗客数、売上額ともに今期以上の増加が見込まれる。（水運業）
■コロナ禍の影響が落ち着き、観光客が増加すると思われる。（船舶貸渡業）
■３月に大規模集客施設が開業するため、今後は一定程度の集客減が予想される。（社会教育）
■売上はほぼ不変だと思うが、管理コストは大幅に上昇する見通しだ。社員の昇給を予定する。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

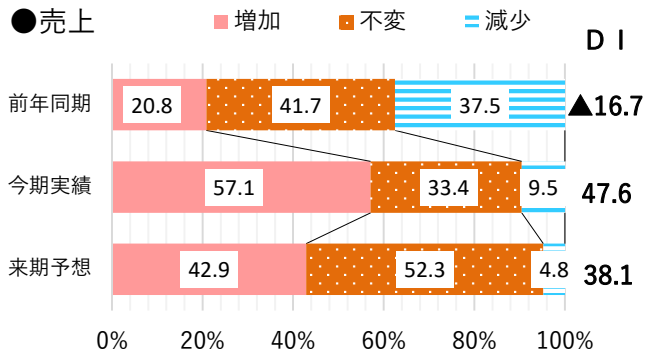
今期（2023.1～3）の業況判断DIは14.3で、前年同期(2022.1～3)と比べ35.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



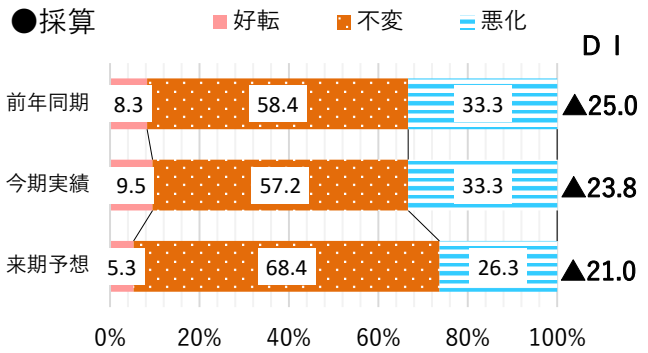
今期の売上高DIは47.6で、前年同期と比べ64.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

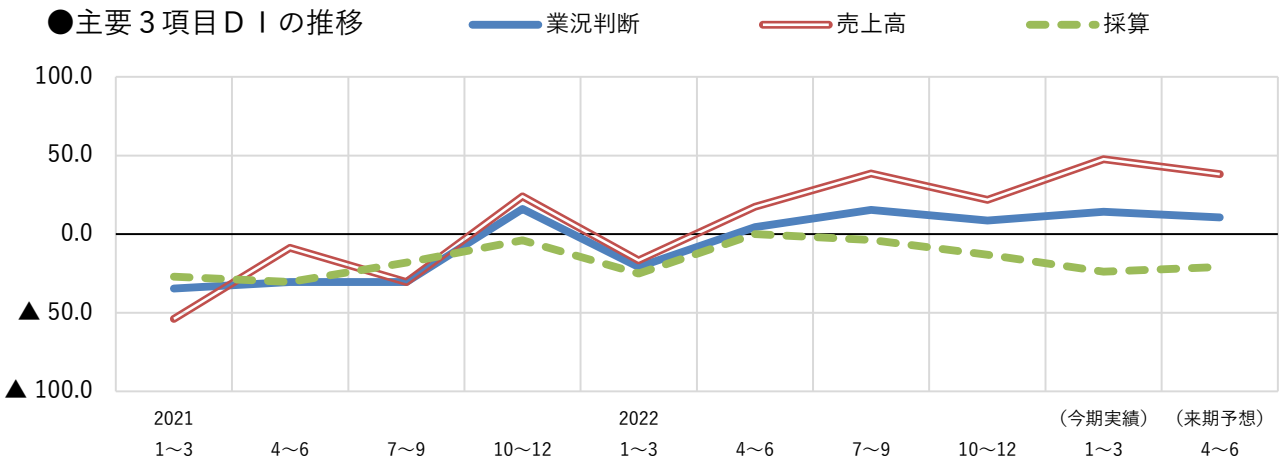
来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。



今期の採算DIは▲23.8で、前年同期と比べ1.2ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。

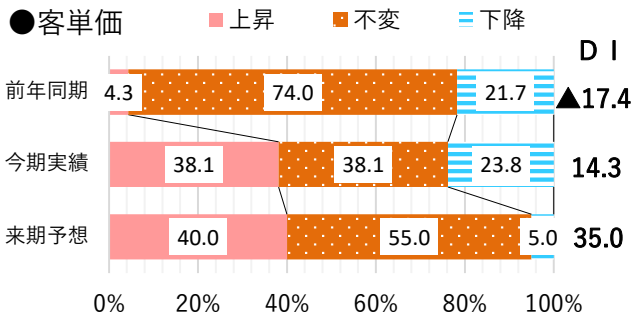




客単価、利用客数、仕入単価

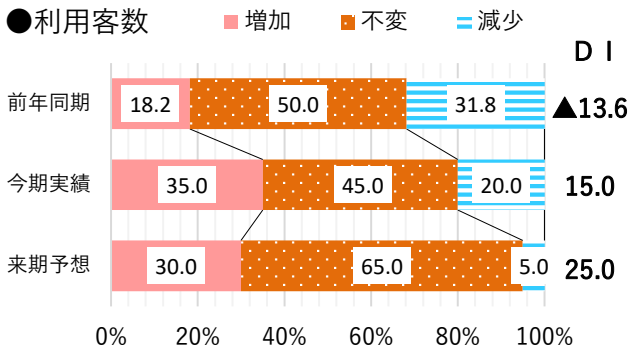
今期の客単価DIは14.3で、前年同期と比べ31.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が強まると予想しています。



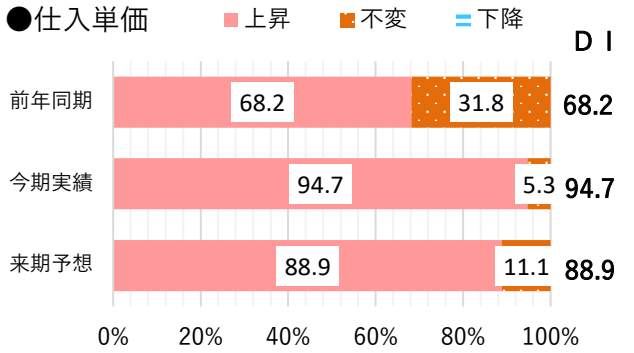
今期の利用客数DIは15.0で、前年同期と比べ28.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が強まると予想しています。



今期の仕入単価DIは94.7で、前年同期と比べ26.5ポイント上昇しました。

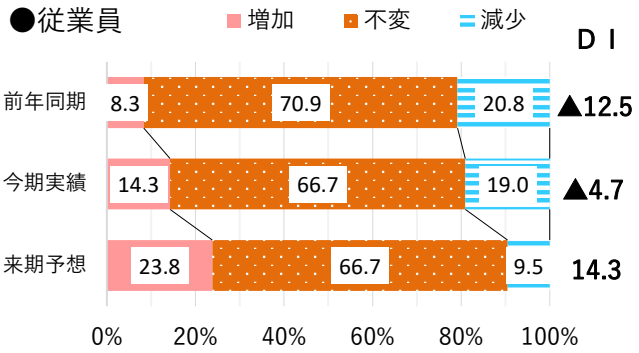
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



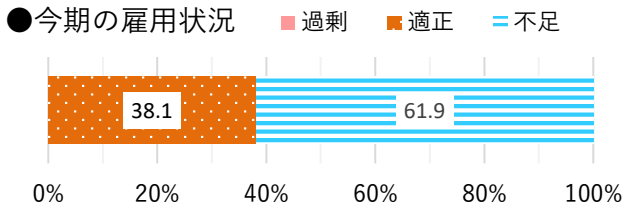
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲4.7で、前年同期と比べ7.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は38.1%、不足していると回答した企業の割合は61.9%でした。



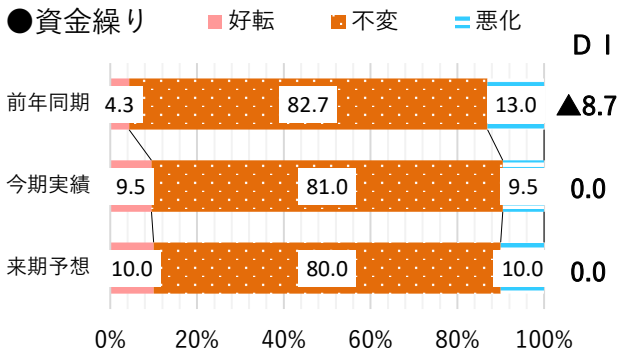
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、38.0%を占めましたが、回答全体では、61.9%で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

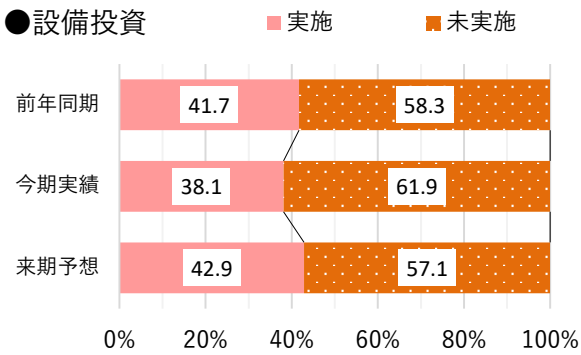
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ8.7ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



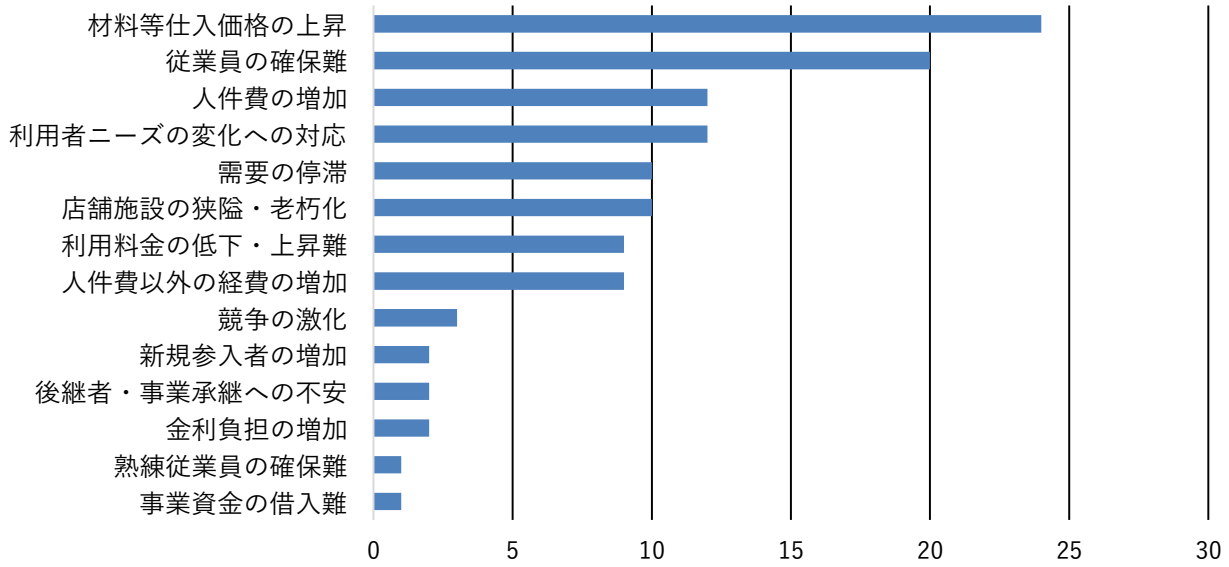
設備投資を実施した企業の割合は38.1%で、前年同期と比べ3.6%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「車両運搬具」、「その他」（同位）、2位が「土地」、「建物」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」、「利用者ニーズの変化への対応」（同位）の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■コロナ禍以前の状況に少しずつ戻ってきている。本州からのお客様やインバウンドが増えて売上は増加したが、材料価格の高騰、光熱費その他経費の増加で利益率はあまり良くない。（飲食店）

■仕入価格の上昇と人材確保に苦慮している。（飲食店）

■利用客数は増えていないが、オプションを注文されるお客様によって客単価が上昇した。仕入単価は少しずつ上昇している。コストを削減し、経常利益に影響が出ないように務めている。（美容業）

■最低賃金や諸経費の上昇等が利益を圧迫し始めている。（ビルメンテナンス）

■物価高騰により、仕入単価が上昇した。（ビルメンテナンス）

■観光客が増加し、需要が回復した。（ビルメンテナンス）

■売上、客単価は増加したが原材料費（ドル決済のクラウドサーバー、光熱費）上昇の影響を受けている。（情報処理・提供サービス業）

■新規顧客の開拓を重視し、売上の増加に向けて取り組んだ。（保険業）

■１～２月は例年売上が伸びないので、原材料費やエネルギー価格の高騰もあり、資金繰りが厳しかった。３月は年度末でもあり、例年並みの売上に落ち着いた。（写真業）

■売上と利用客数が減少傾向にある。社会が写真にお金をかけない傾向にあると思う。（写真業）

■コロナ禍が一段落し、業況回復の兆しが見え始めた。（出版業）

■市外利用者は増加したが、市内利用者は減少した。（不動産代理・仲介業）

■仕入先のメーカーから多数の値上げ受け入れ要請がある。人材は部署により過不足が生じているが、全体として不足しており、従業員の確保が課題だ。（各種物品賃貸業）

［来期の業況について］

■今期と同様に客数は回復するが、材料価格や経費の増加が続く。（飲食店）

■コロナ禍に伴う規制が緩和され、外出の機会が増えるため、需要が高まると思われる。また、季節の変わり目は客数が増えるため、忙しくなると思われる。（美容業）

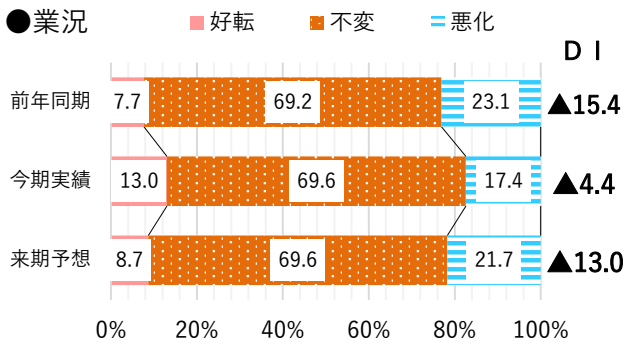
■今後も最低賃金の大幅な引き上げが予想され、労働集約産業は厳しさが増す。（ビルメンテナンス）
■契約金の引き上げを予定しているため、売上が増加すると思われる。（ビルメンテナンス）
■賃貸物件の空きが増加する。（ビルメンテナンス）
■新規案件があり、見通しは良好だが、原材料価格の上昇が気に掛かる。（情報処理・提供サービス業）
■従業員が１人退職するため、人材確保が必須だ。（保険業）
■新しい取引先も増えていないので、例年並みに落ち着くことを望む。（写真業）
■客数は不変だと思われるが、取り扱い商品の確保が難しくなる可能性がある。（不動産代理・仲介業）
■顧客に対する値上げ交渉を継続する。人材確保に積極的に取り組む。（各種物品賃貸業）

建　設　業

業況、売上、採算

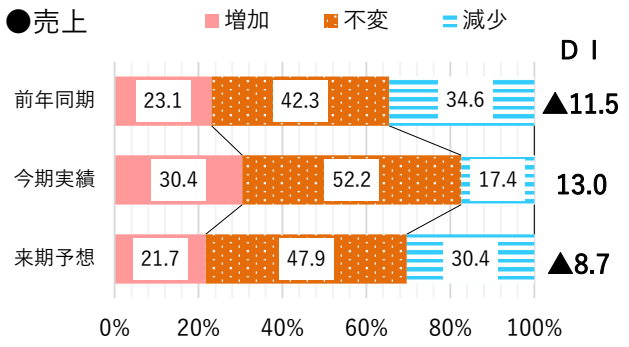
今期（2023.1～3）の業況判断DIは▲4.4で、前年同期(2022.1～3)と比べ11.0ポイント上昇しました。

来期（2023.4～6）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



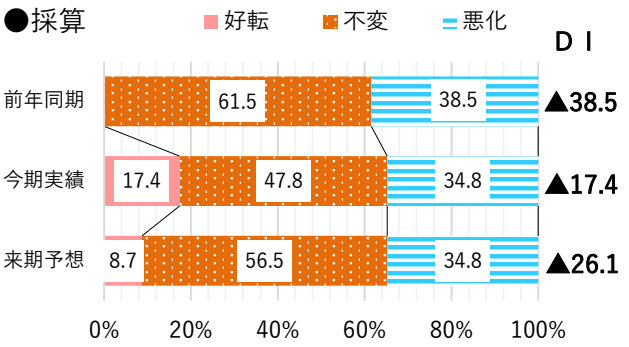
今期の売上高DIは13.0で、前年同期と比べ24.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

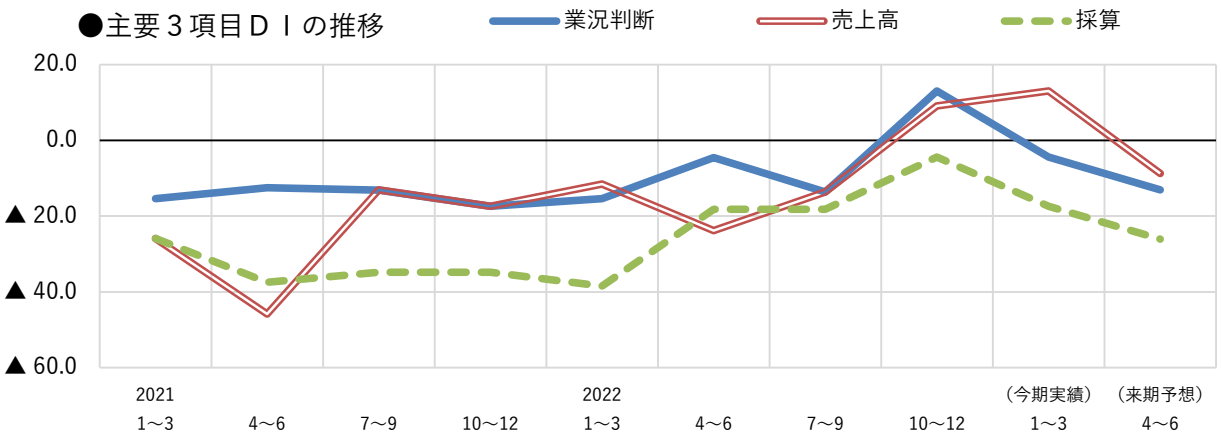
来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。



今期の採算DIは▲17.4で、前年同期と比べ21.1ポイント上昇しました。

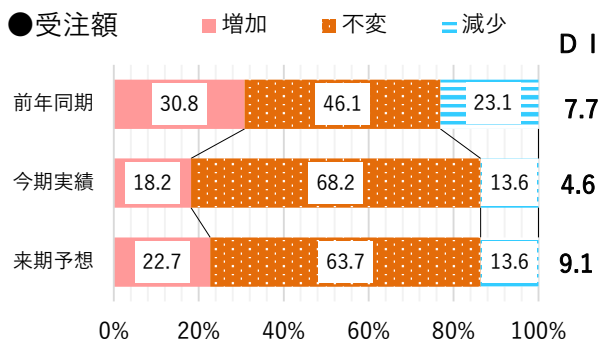
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



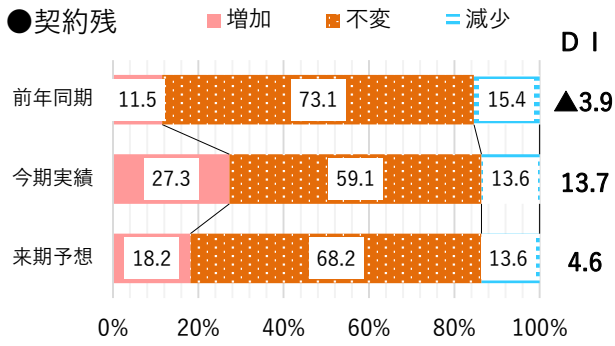


受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

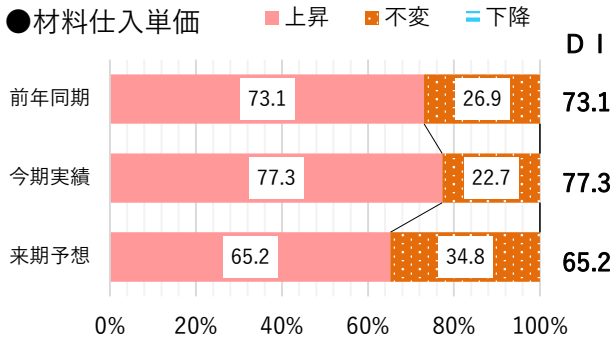
今期の受注額DIは4.6で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。
来期は、受注額の増加傾向が強まると予想しています。



今期の契約残DIは13.7で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇し、プラスに転じました。
来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。

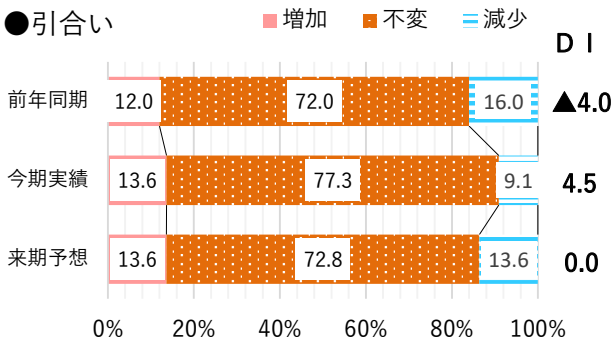


今期の材料仕入単価DIは77.3で、前年同期と比べ4.2ポイント上昇しました。
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

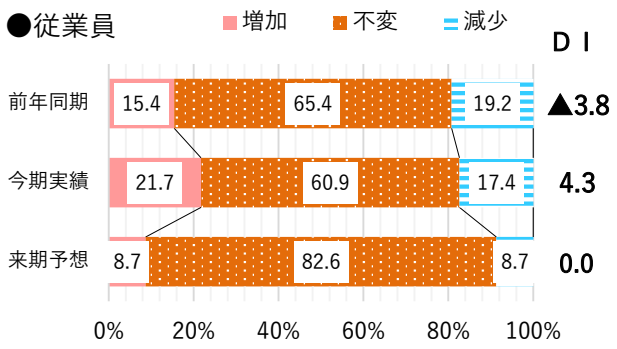
今期の引合いDIは4.5で、前年同期と比べ8.5ポイント上昇し、プラスに転じました。
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



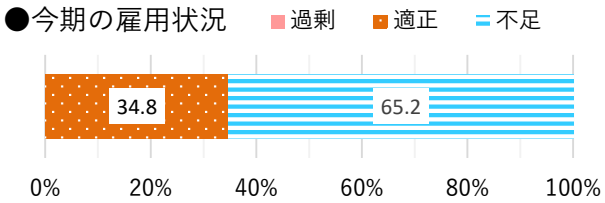
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.3で、前年同期と比べ8.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は34.8%、不足していると回答した企業の割合は65.2%でした。



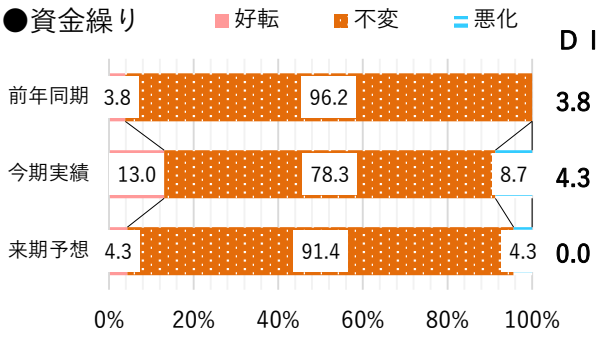
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、30.4%を占めました。回答全体では、65.2%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

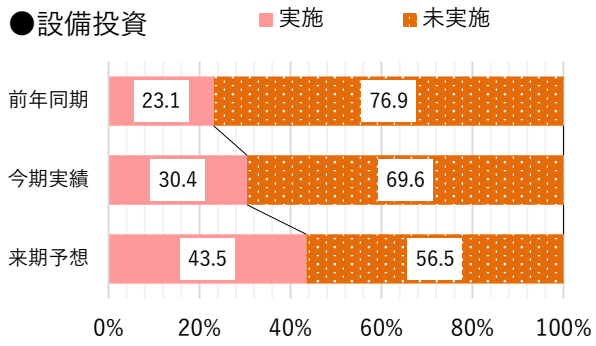
今期の資金繰りDIは4.3で、前年同期と比べ0.5ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



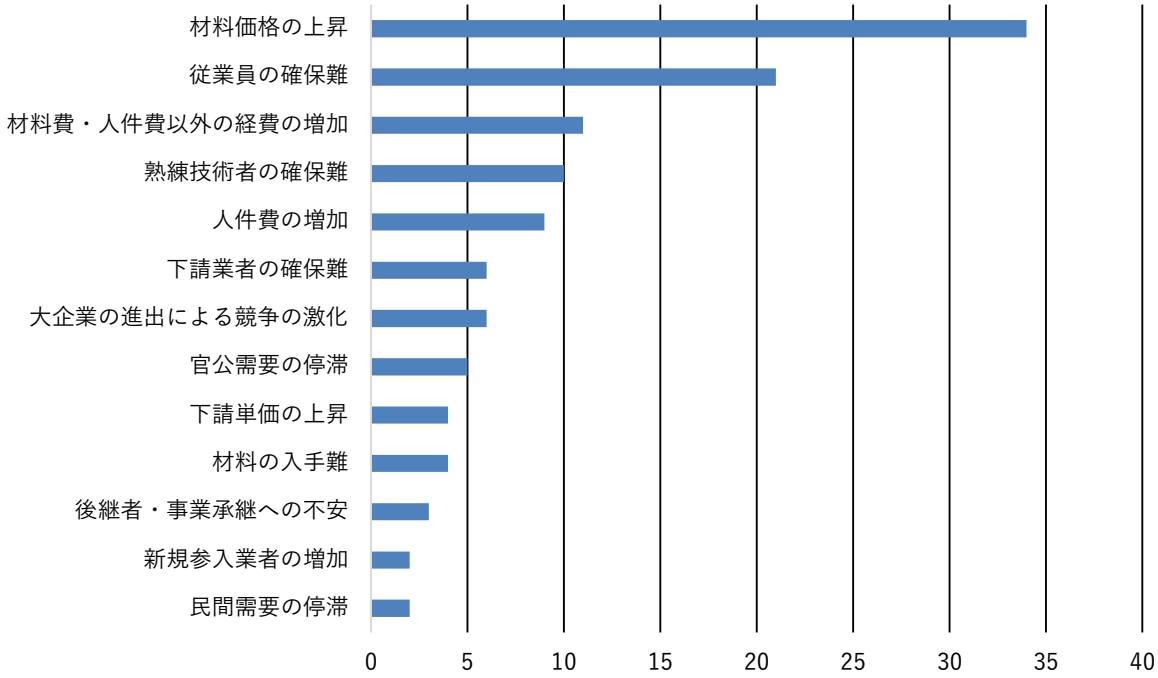
設備投資を実施した企業の割合は30.4%で、前年同期と比べ7.3%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、２位が「ＯＡ機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.5%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■原材料高とＢｔｏＣにおける価格転嫁の難しさが大きな負担となってきている。（一般土木工事業）
■仕入価格の上昇により、業況が悪化した。（一般土木工事業）
■仕入価格、人件費の上昇分は価格転嫁できているので、利益率を確保できている。（一般管工事業）
■コロナ禍が落ち着き、経済が上向きに変わったためか、売上が急に増加した。（職別工事業）
■ガラス、サッシ、木材の仕入単価、運搬費が３０～４０％高くなった。（職別工事業）
■材料単価の上昇等で、利益率が多少圧迫されている。人材確保がスムーズに進み、工事の受注増加に向かえば良いが、現状では難しいかもしれない。（設備工事業）
■経費の徹底的な削減に努めた。（造園業）
■業況は好転したが、材料価格が上昇しているため、思うような設備投資ができない。（電気工事業）

［来期の業況について］

■仕入価格の上昇と人材確保が課題だ。（一般土木工事業）

■一定の利益率が予想される。仕入価格や人件費の上昇よりも先に、人材不足の影響が予想される。（一般管工事業）

■札幌を中心に、今後３年位は売上が増加すると思う。（職別工事業）

■仕入単価がさらに高くなる可能性がある。（職別工事業）

■材料単価の下降は想定しにくい。賃金のベースアップ等検討が必要な問題もあり、状況を注視しながら対応を判断したい。（設備工事業）

■人材不足が続く。（設備工事業）

■受注工事の増加は見込めない。（造園業）

市内企業倒産状況

2023年1月~3月
負債１千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は4件、前年同期比増加
負債総額は6億600万円、前年同期比増加

倒産件数	負債総額
4件	**6億600万円**
前年同期比　件数　＋2件 （前年同期　2件）	負債　＋3億500万円 （前年同期 3億100万円）

■1月
自動車整備（負債2,100万円：販売不振）の1件が発生した。

■2月
作業服販売（負債6,000万円：販売不振）の1件が発生した。

■3月
豆腐製造（負債5億円：販売不振）、家具製造（負債2,500万円：販売不振）の2件が発生した。

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2023年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は61件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は23棟26戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
61件	**23棟26戸**
前年同期比　件数　＋2件 （前年同期　59件） ※変更確認又は変更通知を除く。	戸数　-16棟37戸 （前年同期　39棟63戸）